

第1章 ヨーロッパ・アメリカの地理・地図(基本データ編)

【現在の主なヨーロッパ諸国(東欧と西欧の区分)】

<スラヴ民族と非スラヴ民族の概観> [東欧社会の9割の面積と8割の人口を占める。]

★ カトリック圏 (西方文化) = 東中欧 [ポーランド・チェコ・ハンガリー・(旧)ユーゴスラヴィア北西部]

☆ ギリシア正教圏 (ビザンツ文化→トルコ文化) = 南東欧 [バルカン半島中心。]

37P

東スラヴ = ☆ロシア人、ウクライナ人、ベラルーシ(白ロシア)人

西スラヴ = ★ポーランド人、★チェック人、★スロヴァク人

南スラヴ = ☆セルビア人、★[1 クロアチア]人、★スロヴェニア人、☆ブルガリア人

◇ アヴァール人 [柔然の子孫説。6世紀、パンノニアに定着] 626年、ビザンツ帝国に敗北
796年、フランク王国の[2 カール大帝]に敗れて滅亡。

◇ ブルガール人 [7世紀にドナウ南岸に移住(トルコ系)] ∴スラヴ化してブルガリア人となる。

◇ マジャール人 [9世紀末にパンノニアに侵入。(ウラル語族)] 11世紀にカトリックに改宗。
[3 オットー大帝] [レヒフェルトの戦い]に敗北。

◇ ルーマニア人 (ダキア人) [前1世紀、ドナウ北岸を支配。]

106年、ローマの属州化(トラヤヌス帝時代) [ラテン文化の浸透。]

<冷戦時代の東欧世界>

◇ チャーチルの「[4 鉄のカーテン]」演説 [バルト海(シュテッティン)～アドリア海(トリエステ)]
ソ連の脅威。[ソ連共産党によりナチスから解放された人民民主主義政権の発展。]

◇ トルーマン=ドクトリン (所信表明演説 1947.3) ∴フェア=ディール政策。

[ギリシア内戦に際し、ギリシア・トルコへ経済軍事援助。共産主義封じ込めで冷戦が具体化。]

◇ マーシャル=プラン (1947.6)

[ヨーロッパ経済復興援助計画=1948年、OEEC(欧州経済協力機構)16ヶ国]

∴1949年、ココム(COCOM) [対共産圏輸出統制委員会] 制定。

◆ [5 コミンフォルム] (共産党情報局) (1947.9) **56年解散**

[ソ連、東欧共産党+伊、仏共産党=9ヶ国]

本部、ベオグラード(ユーゴスラヴィア)→ブカレスト(ルーマニア)

1948年、チェコ政変 [ベネシュ政権←ゴットワルト(共産党、実権掌握)]=共産党クーデタ]
∴1948年西欧連合結成。

1948年、ユーゴ追放 [ティトー大統領=集団農業制反対・マーシャル=プラン受入れ表明。]

◆ 経済相互援助会議 ([6 COMECON]), 1949.1) …社会主義諸国の結束をはかる

1950年に東ドイツ・62年モンゴル・72年キューバ・78年ベトナム加盟 68年アルバニア脱退
91年9月に解散

<ヨーロッパ共同体(西欧)の発展>

マーシャル=プランによる援助により西ヨーロッパ諸国の経済回復(高い経済成長)

米・ソの谷間に転落、両世界大戦の反省、経済復興の目的

(エネルギー資源や工業資源の共同管理の追求→相互対立の防止)

1950年、〔7 シューマン 〕 (仏外相) = プラン成立。〔ユーロペシズムからの脱却。〕
1952年、ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体 (〔8 ECSC 〕) 発足〔工業原料の共有化を基本方針。〕
1958年、ヨーロッパ経済共同体 (〔9 EEC 〕) 発足 1957年、ローマ条約
〔フランス・〔10 西ドイツ 〕・ベルギー・オランダ・ルクセンブルク・イタリア〕

関税の引き下げ、共同の商業・農業政策、資本・〔11 労働力 〕 移動の自由化を実施
6カ国以外からの輸入には関税=収入は再分配→共通農業政策
∴ヨーロッパ〔12 原子力 〕 共同体 (EURATOM) の結成にも注意。

1960年、ヨーロッパ自由貿易連合 (EFTA) 発足 [EEC への〔13 イギリス〕の加盟をフランスが拒否。]
〔スウェーデン・ノルウェー・デンマーク・オーストリア・スイス・ポルトガルの7ヶ国。〕

1967年、ヨーロッパ〔14 共同体 〕 (EC) 発足 [ECSC・EEC・EURATOM が合体。]

1973年、拡大 EC 成立。〔イギリス、デンマーク、アイルランドが加盟。〕

※戦後フランスの動向

第四共和政崩壊 (1958) …
アルジェリア独立問題を解決できず政権不安定 第五共和政の成立 (〔15 ド=ゴール 〕 大統領)
アルジェリアの独立を承認 (1962) ・第4の核保有国となる (1960) ・中国の承認 (1964)
北大西洋条約機構への軍事協力を拒否 (1966) = 独自な立場を主張 「フランスの栄光」
1969年仏ド=ゴール (強硬派) 退陣。 ※五月危機 (五月革命)
労働運動や学生運動高揚…戦後の政治・社会制度と経済成長によって変容した社会のずれを批判
ド=ゴールの退陣 (1969) やブランド社会民主党政権の成立 (西ドイツ) など戦後政治の見直し

1975年サミット (先進国首脳会議) 第1回会議 (パリ郊外のランブイエ)

日・米・英・西独・仏・伊・カナダ 第3回目から EC 委員長・91年にはゴルバチョフ参加

1997年ロシア加盟

※1975年サミット (先進国首脳会議) 第1回会議 (パリ郊外のランブイエ)
(日・米・英・西独・仏・伊・カナダ 1991年にはゴルバチョフ参加, 97年ロシア加盟)

1981年、ギリシア加盟 1986年、スペイン・ポルトガルも EC に加盟。

〔16 1990 〕年10月ドイツ統一 外国人労働者問題・ネオナチ
{英サッチャー首相 (消極的) →メージャー首相 (1990、11月)}
国際統合へ [ヨーロッパ経済領域 (EEA) へ向けて EFTA との交渉。]

1992年、〔17 マストリヒト 〕 条約 (欧州連合条約) 採択

{ EC が市場統合後の目標として共通外交・欧州市民権・単一通貨制度を設定 }

ヨーロッパ連合 (EU) 1993年正式発足

2007年12月現在 加盟国 27カ国 西欧ではノルウェー・スイスが非加盟

加盟国間の経済格差の解決・トルコの加盟問題

2009年ギリシアの政権交代により経済赤字が暴露←ユーロ危機 (欧州債務危機)

1

2005年 関西学院大学 経済学部

次の文中の [] に最も適当な語を語群から選び、また下線部に関する問いに答え、記号にマークしなさい。

第二次世界大戦終結後、アメリカ合衆国国務長官 [e イ マーシャル] の提言によって経済復興へのきっかけを得た西ヨーロッパ諸国は、相互の対立を緩和し、経済的協力の強化を図るようになる。このような動きのなかで、フランスの外相

[b ロ シューマン] の提案により、フランス、西ドイツ、ベネルクス3国、イタリアの間で、1952年に [d ハ ECSC] が発足した。ついで1958年には [c ニ EEC] が発足し、加盟国相互の関税引き下げ、共同の商業・農業政策や資本・労働力移動の自由化が実現する。さらに [ニ EEC] は、同じく1958年に発足したヨーロッパ原子力共同体と合併し、その結果1967年に成立した [b ホ EC] は、西ヨーロッパ統合の基盤となった。 [ホ EC] は3次にわたって拡大し、1986年までに12カ国が参加した。

1992年に調印され、翌年発効した

cへ マーストリヒト条約に従って、共通の外交・防衛政策を採用し、将来の政治統合を目指すヨーロッパ連合(EU)が結成された。1995年には新たに3カ国が加盟し、東ヨーロッパ諸国を除く西ヨーロッパのほとんどの国を含むようになった。2002年には、新通貨ユーロによる経済統合が実現された。

そして、2004年5月1日、EUはエストニア、ラトヴィア、リトアニア、ポーランド、**①チェコ、スロヴァキア**、**②ハンガリー**、**③スロヴェニア**、**④マルタ**、キプロスを新たに迎え入れ、加盟国は全部で25カ国を数えるようになった。これにより、第二次世界大戦後に始まった東西冷戦が名実ともに終焉を迎えることになった。

近代以降ヨーロッパの本流からはずされていた欧州の東半分を、戦争によってではなく平和的に取り込み、No.26地域全体の政治的・経済的協力を実現することの歴史的意義はきわめて大きい。加盟国全体の人口は約4億5千万人となり、GDPはアメリカ合衆国に匹敵する。政治・経済・文化のすべての領域で、アメリカ合衆国に並ぶ力を発揮できるかどうか、拡大ヨーロッパは今後その真価が問われることになる。

[語群]

- | | | | | | |
|---|----------------|-----------------|----------|----------|----------|
| イ | a. アイゼンハウアー | b. ウィルソン | c. ダレス | d. トルーマン | e. マーシャル |
| ロ | a. アデナウアー | b. シューマン | c. ド=ゴール | d. ブラント | e. ミッテラン |
| ハ | a. 西ヨーロッパ連合 | b. 独立国家共同体 | | | |
| | c. 中央条約機構 | d. ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体 | | | |
| | e. 経済協力開発機構 | | | | |
| ニ | a. ヨーロッパ経済協力機構 | b. ヨーロッパ経済地域 | | | |
| | c. ヨーロッパ経済共同体 | d. ヨーロッパ評議会 | | | |
| | e. ヨーロッパ自由貿易連合 | | | | |
| ホ | a. ヨーロッパ議会 | b. ヨーロッパ共同体 | | | |
| | c. 北大西洋条約機構 | d. ワルシャワ条約機構 | | | |
| | e. 全欧安保協力会議 | | | | |
| へ | a. ダブリン条約 | b. ブリュッセル条約 | | | |
| | c. マーストリヒト条約 | d. ロカルノ条約 | | | |
| | e. ローマ条約 | | | | |

① 1968年にチェコスロヴァキア共産党の第一書記となり自由化を推進したが、そのような動きを警戒したソ連・東欧5カ国の軍事介入を招き、解任された人物はだれか。

- a. チャウシェスク b. ドプチェク c. ノヴォトニー d. フサーク e. ヤケシュ

② 1956年、ブダペストでおこったハンガリー反ソ暴動に際して首相に選ばれ、一党支配の廃止、ワルシャワ条約機構からの脱退などを声明したが、ソ連軍の軍事介入を招いて失脚した人物はだれか。

- a. カダル b. グロース c. ナジ=イムレ d. ヤルゼルスキ e. ワレサ

③ スロヴェニアは1991年にユーゴスラヴィア連邦からの独立を宣言した。その後発生した旧ユーゴスラヴィア地域の内戦に関する記述で、誤りを含むものはどれか。

- a. スロヴェニアとクロアチアに続いて、マケドニアが独立を宣言した。
b. スロヴェニアの軍隊がボスニア・ヘルツェゴヴィナに侵攻した。

ムスリム40%、セルビア人30%、クロアチア人20%からなるボスニア・ヘルツェゴヴィナ共和国は、独立にはセルビア系住民の反対が強く、1992年の独立宣言以後、内戦状態となる。95年12月には Dayton 和平協定が調印された。

ミロシェビッチ大統領→コソヴォへ侵攻

新ユーゴスラヴィアのコソヴォ制圧に対し、1999年3月から5月にかけて、米を含む NATO 空軍がのべ78日間、セルビアを空爆。アルバニア系住民の人権保護が旗印であったが、国連安保理の決議をへておらず、ロシア・中国などは反発した。コソヴォ独立=9年以降国連の暫定統治下にあったセルビアのコソヴォ自治州は、2008年2月に独立を宣言。2011年9月現在、アメリカのほか、イギリス・ドイツ・トルコ・日本などが独立を承認。反発するセルビアはそれらの国々から大使を召還。ロシア、中国、スペインなどが承認を拒否している

c. 国連の仲介による停戦協定と破棄をくり返したが、アメリカ合衆国の仲介で停戦が発効した。

d. 1998年、アルバニア系住民が独立を求める Kosovo 自治州で紛争が勃発した。

e. Kosovo 紛争に対しては、NATO 軍が軍事介入を行った。

④ 1989年、冷戦の終結を宣言したマルタ会談に参加したソ連の首脳はだれか。

a. アンドロポフ b. プレジネフ c. **ゴルバチョフ** d. フルシチョフ e. コスイギン

【イタリアの地理・都市（北と南の違い）】

<中世のイタリア地域>

843年、〔 1 **ヴェルダン** 〕条約
カール1世→ルイ1世（敬虔王）→
┌ ロタール〔北イタリア・中部フランク（ロタリングア）〕
├ ルイ2世〔東フランク〕
└ カール2世〔西フランク〕

870年、メルセン条約〔ロタールの死後、中部フランクを分割。〕

〈アルプス以北～北海（アルザス・ロレーヌ等）〉

フランク衰退〔諸民族の侵入が激化し、封建制の進行促進〔北→ノルマン人・南→イスラーム勢力〕〕

875年、カロリング家断絶→東フランク王兼任→神聖ローマ帝国の干渉。

小国分立状態。〔教皇領・諸侯・都市〕 ∴ ギベリン（皇帝党）・ゲルフ（教皇党）の対立。

〔南イタリア→〔 2 **ビザンツ** 〕領／シチリア島→イスラーム支配。〕

12世紀にノルマン人の侵入。〔両シチリア王国〕

<中世の北イタリア都市>

〔発生の要因〕
┌ ○農業技術の進歩により余剰生産物の商品化。〔商業の復活。〕
└ ○十字軍により交通路が発達した。〔遠隔地貿易が可能となる。〕

<北伊都市>〔**ジェノヴァ**・**ヴェネツィア**（10万）・**ピサ**=**海港都市** フィレンツェ（**メディチ家**）・ミラノ〕

◇地中海貿易（東方貿易）
奢侈品中心
┌ 輸入 = 〔香辛料（胡椒）・絹・宝石・象牙〕
└ 輸出 = 〔銀（アウグスブルク等の南独産）・毛織物〕

<北方貿易都市>〔〔 3 **リューベック** 〕・ハンブルク・ブレーメン〕

◇北海、バルト海貿易（北方貿易） ∴ 日常生活品中心

〔**鯨**・木材・毛皮（**ロシア**、**バルト海沿岸地域産**）／毛織物・鉄製加工品（**フランドル産**）／葡萄酒〕

ネーデルラント 53p <内陸都市（二大商業圏の中継地点）>

◇シャンパーニュ地方〔**北仏**（**リヨン**）〕〔12～13世紀に定期市発展。∴葡萄酒の名産地。〕

◇フランドル地方〔**ブリュージュ**・**ガン**（毛織物産地）→**アントワープ**（15世紀、**宝石**・**ダイヤ細工**）〕

◇南独地方〔アウクスブルク（**フッガー家**）・**ニュルンベルク**・**ミュンヘン**〕〔**銀の産地**〕

その他の有名都市〔**マインツ**・**ケルン**（**ライン川流域**）／**ホルト**（**カールス川下流**）／**マルセイユ**・**ロンドン**等〕

<イタリアの統一>

19世紀初頭のイタリアの状況。〔**ウィーン会議**〕

ロンバルディア・ヴェネツィア・チロル・イストリア（オーストリア領）

ローマ教皇領（**仏支配**）・両シチリア王国（**奥軍隊が駐留**。）は独立。

〔 4 **サルデーニャ** 〕王国（**サヴォイ併合**）

〔∴1720年、**サヴォイ家**の王国建設。（首都**ピエモンテ**の**トリノ**）〕

第1次、独立戦争 **カルロ**=**アルベルト**（1831～1849）〔**ノヴァラ**の戦いで**奥**に敗北。〕

〔 5 **マツィーニ** 〕の青年イタリア（1831年、**マルセイユ**で結成。）

←**ルイ**=**ナポレオン**出兵。

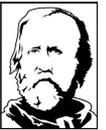
〔∴**ピウス9世**（1846～1878）の**教会国家軍**。〕



<カヴァール>

ヴィットーリオ＝エマヌエーレ 2 世 (1849～1878)

宰相、〔 6 カヴール 〕 (1852～1861) [列強の政治的力関係利用]



①〔 7 クリミア 〕戦争参戦。(1855～1856) [国際的地位向上] <ガリバルディ>

②1858年、プロンビエール密約 [仏ナポレオン 3 世にサヴォイ・ニース割譲を条件に支援約束。]

③1859年、第 2 次独立戦争 塙に大勝。〔 8 ロンバルディア 〕獲得。

∴ 仏=塙、単独講和を締結。「ヴィラフランカの和約」

④1860年、中部イタリア併合 [トスカナ領邦等が希望∴代償にサヴォイ・ニースを仏に割譲]

⑤1860年、南部イタリア併合。〔 6 月、〔 9 ガリバルディ 〕の赤シャツ (千人) 隊遠征。

両シチリア王国征服し、国王に献上。

⑥1861年、イタリア王国成立。〔都の変遷。(トリノ→1865年、フィレンツェ→〔 10 ローマ 〕〕]

ヴィットーリオ＝エマヌエーレ 2 世 (1861～1878)

※1866年、〔 11 ヴェネツィア 〕併合。(普墺戦争) ※1870年、ローマ教皇領併合 (普仏戦争) 翌年遷都。

教皇庁とイタリア王国断絶 [ピウス 9 世「ヴァチカンの囚人」∴黒色インターナショナルで暗躍。]

∴1929年、ラテラン条約で和解。(ムッソリーニ体制。)

未回収のイタリア (イタリア＝イレデンタ) = チロル・トリエステ ← 1919年サン＝ジェルマン条約で獲得。

2

2005 年 立命館大学 文学部

次の文章を読んで空欄に最も適切な語句あるいは数字を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

ウィーン会議以降の政治情勢はイタリアの国家統一に大きな影響を与えた。ウィーン会議は絶対主義勢力の復活によって、ヨーロッパの旧来の秩序回復を狙ったものだが、それに対抗すべく、各地で自由主義的な国民運動が展開され、社会主義的思想も芽生えた。また外国勢力に支配された国々では民主的な国家統一運動が活発化した。イタリアの国家統一運動はこうした状況下で成しとげられた。18世紀イタリアは、スペイン、オーストリアという大国に支配され、独立国家は数少なかった。18世紀末、ナポレオンの侵入により、イタリアの国土のかなりの部分が占領されたが、その支配は長くは続かなかった。ナポレオンの没落後に開かれたウィーン会議で、長い間共和国として繁栄してきた **A ヴェネツィア** は独立を認められず、ロンバルディアとともに、オーストリアの支配下に入った。こうして北イタリアは、独立国家のサルデーニャ王国をのぞけば、その多くがオーストリアの支配下に置かれることになった。ナポレオンはイタリアの国土を じゅうりん 蹂躪したが、自由主義、共和主義といった理想をもたらした。長い間外国勢力の支配に苦しめられてきたイタリアでは、こうした理想はイタリア独立運動と結びつけられ、19世紀の初めに秘密結社の色彩の強い **B カルボナリ** が結成された。

B カルボナリ は自由主義的改革を求め、1820年のスペインの **C 立憲革命** に触発されて、同年にナポリ近郊で反乱を起こしたが、やがてオーストリア軍に鎮圧された。1831年、**B カルボナリ** に参加していたジュゼッペ＝マッツィーニはイタリアの独立と共和政の実現を目指す急進的な政党、**D 青年イタリア** を結成した。同党は1830年代、40年代に何度か蜂起を企てるが、みな失敗に終わった。しかし同党の影響を受け、ドイツ、ポーランド、アイルランドに同じような政党が作られ、独立運動に活躍した。1848年2月、パリで共和主義的改革を求める市民が蜂起した。国王 **E ルイ＝フィリップ** は退位し、共和政の臨時政府が設立され、男子普通選挙制の採用など、諸改革を行った。同年3月、ウィーンで学生、市民、労働者が憲法の制定、出版の自由などを求めて蜂起した。その結果として **F メッテルニヒ** は失脚し、ロンドンに亡命した。皇帝は憲法の制定を約束し、自由主義内閣を成立させた。**F メッテルニヒ** の失脚を機に、ハンガリー、北イタリアで民衆の蜂起が起きた。ハンガリーでは **G コッシュート** が立憲主義的改革とハンガリーの自主独立を求め、改革運動の指導者として活躍した。北イタリアのミラノでは、市民、労働者がオーストリアの支配に対抗して蜂起を起こし、激しい市街戦の末、オーストリア軍を打ち破った。ミラノはほどなくしてオーストリアの支配下に戻るが、国家統一の熱気はこの事件で燃え上がった。**H 1849** 年には共和主義を旗印に、マッツィーニらが参加して、ローマ共和国が建設された。同共和国は急進的改革を唱えたが、ローマ教皇はフランスに援助を頼み、フランス軍につぶされてしまった。イタリアの統一は穏健な自由主義を掲げるサルデーニャ王国が主導することとなった。国王 **I ヴィットーリオ＝エマヌエーレ 2 世** のもとで首相となったカヴールは国内の近代化を進めるとともに、国際世論に統一の正当性を訴え、**J クリミア** 戦争にも参加し、列強の支持を獲得した。

〔1〕 1858年、カヴールはフランスのナポレオン3世と密約を結び、翌年オーストリアに宣戦を布告した。サルデーニャ王国とフランスの連合軍はオーストリア軍を打ち破ったが、ナポレオン3世は途中で態度を変え、単独でオーストリアと休戦を結んでしまった。そのためサルデーニャ王国はロンバルディアを得るだけにとどまった。1860年、**D 青年イタリア**に属していた**K ガリバルディ**は義勇軍をひきいてシチリア島を占領し、さらに南イタリアも征服して、これらの地域をサルデーニャ王に献じた。こうして1861年に**I ヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世**を国王とするイタリア王国が誕生した。しかしオーストリアの支配下にあった**A ヴェネツィア**とローマ教皇領はまだ未統一だった。**A ヴェネツィア**がイタリアに統合されたのは1866年の**L 普墺**戦争の後であり、ローマ教皇領は1870年の**M 普仏**戦争の際、イタリア王国軍がローマを占領することで〔2〕統合が実現されたのである。〔1〕 この密約の名を記せ。 **プロンビエールの密約**

〔2〕 統合実現後もオーストリアの支配下にとどまったイタリア人居住地域のことを何と呼ぶか。 **未回収のイタリア**

南チロル・トリエステのこと

【ロシアの地理・都市（ノヴゴロド・キエフ・モスクワ）】

∴ Rus＝ルーシ [ヴァリャーグ人（スウェーデン系ノルマン人）・キエフ国家の上流社会]

[1 **スキタイ**] 人（前7世紀～前3世紀） [黒海沿岸のギリシア植民市と交易。]

∴ 動物意匠の青銅器文化に特色。

∴ アヴァール人（モンゴル系遊牧民）も6世紀から7世紀にかけ黒海周辺に進出。

〔 2 **ノヴゴロド** ） 国（862～882） 「新しい都市」ルス族のリュールク（ルーリック）建国。

ヴォルガ水系を中心に、東スラヴ民族を支配して建国。

キエフ公国（882～1243） ノヴゴロド王のオレーグがドニエプル川南下して中流域に建国。

[バルト海周辺→ドニエプル川沿い→黒海→コンスタンティノープル]へと発展。

ウラディミール1世（聖公）（980～1015） [ビザンツ文化圏として発展。]

988年、ギリシア正教の国教化 [バシレイオス2世の妹アンナと結婚。]

<衰退の原因>

十字軍の影響により、地中海貿易が発展。 [ドニエプル水系経由の商業衰退。]

1204年ラテン帝国の成立で決定的となる。 [西欧と東欧（コンスタンティノープル）が直結。]

【キプチャク＝ハン国の支配】

1223年、カルカ河畔の戦いで敗北。 [チンギス＝ハンの西征の時、一部南ロシア（ジューバとスプタイ）に侵入。]

<※ [3 **バトゥ**] の西征（1236～1242） >

1240年、キエフ陥落。→1241年、 [4 **ワールシュタット（リグニッツ）**] の戦いで

ドイツ（騎士団）とポーランド連合軍を破る。 [シュレジエン公、ハインリヒ2世戦死。]

→ハンガリー軍を破り、アドリア海方面へ。→オゴタイ＝ハンの死で帰還。

キプチャク＝ハン国（1243～1502） 建国。都サライ ∴ウズベク＝ハン（1313～1340）時代に最盛期

1395年、ティムールの攻撃をうけて以降、国内の分権化進行。

南ロシア地域＝直接支配。 東北ロシア地域＝間接支配。 [貢納のみ（タタールの軛）]

∴西南ロシア＝リトアニア及びポーランドの支配。

※ノヴゴロド共和国（1136～1478） [大商人、貴族達による自治権（商業繁栄）]

【モスクワ大公国】 1276年、モスクワ公国自立。（ダニール公）

1328年、モスクワ大公国成立。 [キプチャク＝ハンから大公位を許可。＝イヴァン1世（1325～1341）]

[府主教座も移転し、全ロシアの宗教的中心地となる。（ウラジミール→モスクワ）]

□ イヴァン3世（1462～1505） 1472年、 [5 **ツァーリ**] の称号を採用。 <イヴァン3世>

[ビザンツ帝国を継承。 [6 **モスクワ**] ＝第三のローマ] 「全ロシアの君主」と自称。



「双頭の鷲」をモスクワ大公の紋章。 ギリシア正教の首長の地位。

最後のビザンツ皇帝（コンスタンティヌス11世）の姪ソフィアと結婚

1480年、キプチャク＝ハンから独立。 [クリミア＝ハン国と協力して1502年にキプチャク＝ハン国を滅亡さす。]

次の文章を読んで空欄に最も適切な語句を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

ロシア最古の年代記の862年の項にはロシア国家の起源について次のように書いてある。

彼らの間には正義がなく、氏族は氏族に向かって立ち、彼らの間に内紛が起こって、互いに戦いを始めた。彼らは互いに「私たちが統治し、法によって裁くような公を、自分たちのために探し求めよう」といい合った。彼らは海の向こう、^{〔1〕} ヴァイキングのもとに行った。彼らは「私たちの国の全体は大きく豊かですが、その中には秩序がありません。公となって私たちが統治するために来てください」といった。

「彼ら」は東スラブ人であり、Aバルト海と黒海・カスピ海を結ぶ商業・交通ルートに沿って9世紀までに小国家を形成していた。この伝承によれば、「彼ら」に請われたヴァイキングの首長はまざノブゴロドで、そしてさらに南下シキエフを中心に^{〔2〕} 東スラブ人の諸集団を支配するようになった。征服者のヴァイキングは短期間のうちに支配する民に同化し、こうしてロシア国家の形成が始まる。10世紀末にキエフ大公は各地の土着の勢力を抑えると同時に、ビザンツ皇帝バシレイオス2世の妹と結婚し、^{〔3〕} キリスト教(正教会)に改宗した。こうして、ロシアの国際的な地位が上昇し、ロシアはビザンツの影響下に入ることになる。しかし、続く時代には、繁栄の陰で次第に各地の諸公国の自立化傾向が強まり、また、農民のB農奴化も進んだ。すでに、建国の当初からロシアは東のステップ騎馬民族の圧力と戦いながら発展してきたが、13世紀の半ばにモンゴル勢力がユーラシア大陸の東西に伸び、ロシアの諸公もCサライを首都とするキプチャク＝ハン国の保護・支配下に入った。このいわゆる「Dタタールのくびき」のもとでロシアの政治的中心はキエフから離れ、さらに北東に移っていく。14世紀に勢力を広げたのはモスクワ公国であり、キプチャク＝ハン国から大公の称号を獲得すると、府主教座もモスクワに移した。まもなくキプチャク＝ハン国は当時中央アジアの大部分を制圧しつつあったEティムールの攻撃を受けて、衰退し分裂していった。^{〔4〕} こうして東方が開けたことは、その後のシベリアに向かうロシアの発展にとって大きな意味をもっていた。また、A方面もロシアの発展にとって重要であるが、ここではモスクワ公国が強大化するのとほぼ同じ頃に、Fリトアニア人が西欧の「北の十字軍」の尖兵ともいべきGドイツ騎士団の進出に対抗して国家統一を固めた。彼らは一時黒海にまで勢力を拡大し、人口の75%が東スラブ系の住民からなる大国家に発展した。モスクワ公国はこれとも対決しなければならなかった。14世紀末に、Fリトアニア人はポーランドと同君連合を形成した。これによりGの進出を阻止することには成功したが、15世紀には内部の民族的・宗教的対立などが原因で急速に衰退していった。以上のように、ロシアにおける国家の形成はユーラシア大陸の東西での動向に影響されながら進んだ。15世紀の後半に大公Hイヴァン3世は、東スラブ諸集団の統合をほぼ完成させ、最後のビザンツ皇帝の姪と結婚し、自らがローマ帝国の後継者にして正教会の守護者であると主張して、Iツァーリの称号を名乗った。モスクワは「J第三のローマ」になったのである。このことは、政治と宗教が融合し、^{〔5〕} 君主権力が神聖化されるビザンツ的伝統の継承であり、近代以降のロシア専制国家のあり方を決定づけるものでもあった。

〔1〕 引用文中の「彼ら」が自らの支配者となったヴァイキングたちのことを呼んだ名称は、後に「ロシア」の語源となった。

この名称を答えよ。 ルーシ

ルス(ルーシ)とはロシア、ロシア人のもととなった東スラブの種族の呼称。この語の発生については、18世紀以来論争があって、「ノルマン説」を唱える学者はスカンディナヴィア起源を主張し、他方はスラブ起源を主張している。現在ロシアの学者は黒海北岸、ドニエプル川流域に住んでいたスラブ人に由来するものと考え、それがのちに国と民族の名称になったとしている。この語は17世紀にいたるまでロシアの地と国家をさして用いられたが、15世紀末から「ロシア」Rossiyaという語が用いられはじめ、次第にルス(ルーシ)からロシアと呼ばれるようになった。

〔2〕 彼らは政治的な分裂の過程で言語的な一体性も失い、大きく三つのグループに分かれた。それぞれソ連時代に名目上は連邦を構成する共和国となりソ連解体後には独立した。このうちキエフを中心にした民族集団を何と呼ぶか。

ウクライナ人

ウクライナにおける人口は約3800万で、同国人口の70%以上を占める。旧ソ連諸国では、隣接するモルドバに約38万人、ロシアに約19万人が住むほか、カザフスタンに約34万人、ベラルーシに約13万人、ウズベキスタンにも約8万人が居住する。かつて宗教は大部分がギリシア正教であったが、16～17世紀にポーランドの支配下にあった西部ではユニアト教(ギリシア正教とカトリック教との合同派)が取入れられた。

[3] キリスト教の受容は文字の導入、普及という点で文化面でも大きな意味をもっていた。この文字を何と呼ぶか。

キリル文字

キリル文字とは9世紀後半につくられ、**グラゴル文字**と並んで**古期教会スラブ語**の表記に用いられた**アルファベット**。広義には、**ロシア文字**などキリル文字を母体とするすべての文字をさす。ギリシアのキリスト教伝道者**キュリロス**と**メトディオス**の名にちなむが、彼らが考案したのは**グラゴル文字**のほうであったという説が有力である。

[4] 16～17世紀にロシアのシベリア進出の尖兵となった**辺境防備の自由な戦士集団**の生活習慣や文化のなかに、**ステップの騎馬民族**からの影響を認めることができよう。この戦士集団の名称を答えよ。 **コサック**

コサックはロシア語では**カザーク**と呼ばれる。「自由な人」「豪胆な者」を意味するトルコ語に由来する。15世紀になると**ロシア**と**ポーランド・リトアニア**（リトワ）**国家の抑圧、搾取を嫌って、多数の農民、手工業者が南方に逃れ、みずから「自由な人」すなわちコサックと称するようになった。**

[5] 皇帝が政教両権の頂点に立つこの支配体制のことを何と呼ぶか。 **皇帝教皇主義**

【北歐方面の地理・都市（ノルマン人の歴史）】

51p 8世紀以降移動。ヴァイキング「入江の民（普段は農耕を営む）」

デンマーク王国 [8世紀頃、建国（**デーン人**） ∴ゴドフレッド王←→カール大帝]

ノルウェー王国 [9世紀末**ハロルド 1世**建国（**ノル人**） ∴9世紀後半、**アイスランド**・**グリーンランド**へ植民。]

スウェーデン王国 [8～9世紀頃、建国。（**スウェット**族） 10世紀、海上活動最盛期。]

【フランス方面】 911年、〔1 **ノルマンディー**〕公国（首長**ロロ**） [名目上、仏王に臣属。]

【ロシア方面】 862年、**ノヴゴロド国** [ルス族の**ルーリック**（**リューリック**）、建国。]

882年、**キエフ公国** [オレーグが**ドニエプル川**を南下して建国。（**スラヴ化**）]

【イタリア方面】 **ルッジェーロ 2世**、建国。

→11世紀、**ナポリ領有**→1130年、**シチリア領有** = 〔2 **両シチリア** 〕王国（1130～1860）

首都**パレルモ** [1194年、**ノルマン王国**→**神聖ローマ領**（**フリードリヒ 2世**）]

【イギリス方面】 『**アングロ・サクソンの支配時代からノルマンの侵攻まで**。』

アルフレッド大王（871～899）[**デーン人**の撃退。学芸の奨励や行政組織整備。]

エセルレッド 2世（978～1016）[**デーンゲルト**（**デーン人**撤退のための資金）を国民に賦課。]

デンマーク王、**スウェイン** [1013年、**エセルレッド 2世**を**ノルマンディー**に追放。]

○**カヌート** [スウェインの子] ∴**デーン朝**（1016～1042）[∴1035年、**カヌート**の死後衰退。]

∴1018年、**デンマーク王**（兄の死後継承）・1028年、〔3 **ノルウェー** 〕を征服。

◇**アングロ＝サクソンの復活**。**エドワード 懺悔王**（1042～1066）[**エセルレッド**の遺児（実子なく死亡。）]

ノルマンディー公ウィリアムの**イングランド侵入**。[**ウェセックス家**の**ハロルド**の**王位継承**に反対。]

1066年、**ヘースティングズの戦い**で勝利 [ウィリアム 1世（1066～1087）として即位。]

〔4 **ノルマン** 〕朝（1066～1154）

[1086年、**ソールズベリ**の誓い。 1086年、**ドゥームズデイ＝ブック**の作製。]

[**ノルマン＝フレンチ**（**ノルマンディー語**）の浸透。（古英語→中世英語）]

∴1500年以後（百年戦争でフランスへ進出。）、近代英語が確立。

4-1

2005年 立命館大学 法学部

次の文章を読んで空欄に最も適切な語句あるいは数字を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

ヴァイキングは北欧の **A スカンディナヴィア** 半島やユトランド半島を原住地として、農耕、牧畜、漁業を営んでいたが、古くから海上交易で活躍し、さらには海賊行為を働くことで恐れられていた。〔1〕彼らは8世紀末から各地に進出し、大ブリテン島北部の島々に定着したほか、大ブリテン島東岸、フランス西岸などを略奪した。彼らは堅固な作り的高速船を駆使し、水深の浅い川でも航行することができた。大ブリテン島には5世紀にアングロ・サクソン族が移住して来て、小王国が分立する

B 七王国へ**プターキー** 時代を迎えていたが、9世紀前半にウェセックス王 **C エグベルト** がこれらの小王国の統一を進めた。しかしこの頃からヴァイキングの侵入が激しくなり、イングランドの北部と東部が占領されることになった。9世紀末、

Dアルフレッド大王 はヴァイキングと戦って撃退し、さらには協定を結んで国土を守った。ヴァイキングはフランスにも進出し、9世紀後半には執拗にパリを攻撃したが、**Eロロ** がひきいる一派は、911年に西フランク王により、キリスト教改宗を条件としてフランス北西部を与えられ、**Fノルマンディー公国** を建国した。彼らは現地の人々と通婚し、急速にフランス化していった。それから数代下った頃、彼らはヴァイキングの特徴をほとんど失っていたが、^[2] 彼らの君主は**G 1066**年、王家の後継者問題に乗じてイングランドに攻め込み、新王朝を建て、大陸から**H封建**制度を導入した。

フランス化したヴァイキングの一部には、地中海に目を向けるものたちもいて、11世紀に南イタリアに傭兵として進出し、領地を得て定住した。彼らは南イタリアを支配下に取めると、当時**Iアラブ**人に占領されていた**Jシチリア**島を攻め、11世紀末に同島を支配下に置き、12世紀に南イタリアと合わせて両**Jシチリア**王国を建設した。

北ヨーロッパでは、ヴァイキングの別の一派がスラブ人との交易に活躍していたが、9世紀に、**Kリューリク**にひきいられた氏族が、スラブ人の要請に応じて北西ロシアに進出し、**Lノヴゴロド国**を建国したとされている。彼らは9世紀末にはさらに南下し、**Mキエフ公国**を建国した。しかしヴァイキングは少数であったため、徐々にスラブ化していった。

[1] 9世紀後半に、この中の一派は大西洋の北東に位置する島に植民した。そこは、北欧神話が文学作品として残ったことでよく知られている。その島の名称を答えよ。 **アイスランド**

北欧神話はゲルマン神話の一種で、ノルウェー、スウェーデン、デンマークなどいわゆる北欧人の間に伝承された神話。地理的位置や、他のゲルマン人よりも遅くキリスト教に改宗したことなどもあって、比較的純粋に保存されているとされる。特にアイスランドの新旧両「エッダ」にその内容がうかがわれる。

[2] 1154年にこの王朝が断絶したあと、同様にフランス出身の貴族が婚姻関係によって新しい王朝を開いた。この王朝の名称を答えよ。 **プランタジネット朝**

プランタジネット朝はイギリスの王朝（1154～1399）であり、フランスのアンジュー伯ジョフロアの子 **ヘンリ2世**（在位 1154～89）が始祖（母はイングランド王ヘンリ1世の娘マティルダ）。アンジュー家（朝）、アンジュバン家（朝）とも呼ばれるが、家紋の「エニシダ」（ラテン名 *Planta Genista*）にちなんでこの称があるという。ヘンリ2世はフランス内にも広大な領土を有し、また多数の法令を發布して王権を伸張、次いでその子 **リチャード1世**（在位 89～99）は対フランス戦争、第3次十字軍に参加して武名を揚げたが、不在が多く、国内動揺の因をなした。その弟 **ジョン**（在位 99～1216）は対フランス戦争でフランス内領土の大半を失い、ローマ教皇インノケンティウス3世と争って屈服するなど失政が多く、国内貴族は『マグナ・カルタ』を王に認めさせ、王権は大いに失墜した。その子 **ヘンリ3世**（在位 16～72）も失政が多く、貴族の内乱を招き、彼らは議会を開いて王権の制限を試みた。議会制度はその子 **エドワード1世**（在位 72～1307）、その子 **エドワード2世**（在位 07～27）、さらにその子 **エドワード3世**（在位 27～77）の時代、順調に発展した。またエドワード3世時代には対フランス百年戦争が起り、その子 **エドワード**（黒太子）が武名を揚げたが病死し、王位は黒太子の子 **リチャード2世**（在位 77～99）に引継がれた。しかし専制のため貴族の不満を招き、ランカスター家のヘンリが王を捕えて退位させ、みずから **ヘンリ4世**として即位したので、プランタジネット朝の支配は終わった。

4-2

2004年 早稲田大学 法学部

近代ヨーロッパの国際関係の形成に対し、バルト海をめぐる覇権闘争は、顕著な影響を及ぼした。スウェーデンの動向を中心に、バルト海の覇権闘争について、下記の語句(順不同)を少なくとも1回は使用し、200字以上250字以内で説明しなさい。ただし横書きとし、所定の語句にはアンダーラインを付しなさい。句読点、＝は1字に数え、数字は1まずに1字を入れるものとします。ウエストファリア条約 カール12世

カルマル同盟

グスタフ＝アドルフ

三十年戦争

ピョートル1世

北方戦争

中世＝バルト海の覇権を掌握していたハンザ同盟にかわり、14世紀末にデンマーク主導のカルマル同盟が成立 16世紀にスウェーデンは同盟を解消

17世紀にはグスタフ＝アドルフがドイツ三十年戦争に介入し、スウェーデンはウエストファリア条約で領土を拡大し、バルト海を内海とするバルト帝国となった。

ロシアのピョートル1世はデンマークポーランドとともに北方戦争を戦い、カール12世に勝利してロシアがバルト海の覇権を握った。

【ネーデルラントの地理・都市】53p

[1 フェリペ2] 世(1556～1598) [絶対王朝最盛期を現出。 ∴1554年、マリ1世と結婚]
1571年、レパントの海戦 (教皇、ヴェネツィア連合軍とオスマン＝トルコ軍を撃破。) で地中海支配。
ポルトガル併合 (1580～1640) [植民地と貿易を継承]

「太陽の沈まぬ帝国」を現出

※宗教的専制政治 (カトリック政策) を展開 [レコンキスタで誕生した国の宿命。]

∴カール5世まではネーデルラント議会 (課税・司法権) を尊重。



<フェリペ2世>

<オランダ独立戦争(1568～1609)>

1576年、ガン協約 [全州の同盟成立。]

南部10州 [(現 [2 ベルギー]) カトリック・ラテン系住民多し。]

1578年、自治権承認と交換に戦線離脱。

1714年、スペイン継承戦争後にオーストリア領となる。(ラシュタット条約)

北部7州 [ゴイセン・ゲルマン系住民多し] 1579年、 [3 ユトレヒト] 同盟にて結束強化。

1581年、ネーデルラント連邦共和国の独立宣言。 [オラニエ公ウィレム＝ホラント公ウィリアム (初代総督)]

※1588年、エリザベス1世とのアルマダ (無敵艦隊) の海戦で制海権喪失。 [ドレイク・ホーキンスの活躍。]

1609年、休戦条約 (事実上の独立) [∴1648年、ウェストファリア条約で承認。]

【オランダの繁栄・衰退】1585年アントワープ攻撃 → [4 アムステルダム] に中心が移動。

1602年、東インド会社設立 [1619年、バタヴィア建設。 1623年アンボイナ事件で英失脚。]

1617年、西インド会社設立。 [新大陸貿易] ∴強制栽培制度 (ファン＝デン＝ボス)

1651年、航海法 (クロムウェル) による仲介貿易への打撃 = 1次～3次、蘭英戦争 (1652～1674) 敗北。

5

2004年 同志社大学 法学部

文中の(a)～(u)については()内の最も適切な語句や数字を選んでその番号を解答欄に記入しなさい。また、文中の《 A 》～《 D 》については適切な語句や数字を解答欄に記入しなさい。

15～16世紀においてフランドル地方のアントワープは国際商業の中心地であった。16世紀後半、スペイン国王(a)(1. カルロス1世 2. **フェリペ2世** 3. カルロス2世)がネーデルラントに(b)(1. **カトリック** 2. カルヴァン派 3. ルター派)の教を強制し、都市に重税を課したため、貴族が自治権を求めて反抗し、これに商工業者が加わって、独立戦争がはじまった。(b)勢力の強い10州は途中で脱落したが、ホラント州など7州はユトレヒトにおいてユトレヒト同盟を結び、イギリスの援助を受けて戦いつづけた。そして、(c)(1. 1571 2. **1581** 3. 1588)年に独立を宣言し、独立運動の指導者《 A **オラニエ公ウィレム**》を総督(統領)とするネーデルラント連邦共和国、すなわち(d)(1. **オランダ** 2. ベルギー 3. ルクセンブルク)を成立させた。この国は後に《 B **ウェストファリア** 》条約で正式に承認された。

ネーデルラント連邦共和国は、バルト海貿易や漁業で栄えたうえ、宗教的理由による商工業者の流入で毛織物業も繁栄した。さらに、同国は海洋の自由を唱えて、1602年、《 C **東インド会社**》を設立し、アジアへの進出を開始した。17世紀前半には繁栄を誇り、アムステルダムはアントワープにかわって国際商業と金融の中心地となり、独自の市民文化も生まれた。この文化のもとに(e)(1. **グロティウス**, レンブラント (オランダ, **バロック** 「夜警」) 2. ルーベンス (フランドル, **バロック** 「キリストの磔刑」), ファン＝ダイク (フランドル, **バロック**) 3. フランシス＝ベーコン, デカルト (フランス→オランダ移住)らが活躍した。なおルクセンブルク, ホラント, フランドルの3つの地方について北から南に順に挙げると、(f)(1. フランドル, ホラント, ルクセンブルク 2. **ホラント, フランドル, ルクセンブルク** 3. ルクセンブルク, フランドル, ホラント)となる。イギリスでは、(g)(1. ヘンリ7世 2. ヘンリ8世 3. **エリザベス1世**)は強大なスペインに対抗してネーデルラント連邦共和国の独立を支援した。その死後、スコットランド王が(h)(1. チャールズ1世 2. チャールズ2世 3. **ジェームズ1世**)としてイングランド王に迎えられ、(i)(1. テューダー朝 2. ハノーヴァー朝 3. **ステュアート朝**)を開いた。王は議会を軽視し、自由な経済発展を求める勢力である(j)(1. **ピューリタン** 2. カトリック 3. 国教徒)を圧迫した。おりから国際商業の不況がはじまったが、王は有効な打開策をとらず、逆に重税を課したので、中産階級の不満が高まった。つぎの(k)(1. **チャールズ1世** 2. チャールズ2世 3. ジェームズ1世)も専制政治をつづけたので、議会は1628年に(1)(1. **権利の請願** 2.

人身保護法 3. 審査法)を可決した。しかし王は、一方的に議会を解散した。

王は、宗教的な強制に反発したスコットランドが反乱をおこすと、戦費調達のため議会を開いた。議会が王の暴政を非難すると、王は武力で議会をおさえようとし、1642年、王党派と(m)(1. 国教派 2. 議会派 3. 長老派)の間で内乱がはじまった。クロムウェルは、鉄騎隊を中核にして軍を新たに編成し、ネーズビーの戦いで勝利した。このころ長老派と独立派とは対立し、さらに水平派(平等派)も形成された。独立派は、水平派と協力して議会から長老派を追放し、(n)(1. 1647年 2. 1649年 3. 1653年)に国王を処刑して共和政を樹立した。

その後、クロムウェルは、オランダの中継貿易に打撃を与えるため、《D航海法》法を發布した。これはオランダ商船がイギリスの港に出入りすることを禁じていたので、中継貿易を主とするオランダに打撃をあたえた。このため両国間に第1次の英蘭戦争がおこり、イギリス優勢のうちにおわった。クロムウェルは、内外の難局に対処するため、護国・となって軍事独裁を強めた。そのため、彼の死後、国民の不満が高まり、(o)(1. 長老派 2. 独立派 3. 水平派[平等派])が中心となって王政復古を行い、(p)(1. チャールズ1世 2. チャールズ2世 3. ジェームズ2世)を王に迎えた。しかし、その王が絶対王政と(q)(1. ピューリタニズム 2. カトリック 3. 国教会)の復活をはかったため、議会は、1673年に(r)(1. 権利の請願 2. 人身保護法 3. 審査法)を可決して非国教徒が公職につくことを禁じた。このころ議会では、王権と国教会を擁護する(s)(1. トーリー党 2. ウィッグ党 3. 自由党)と、議会の権利を主張する(t)(1. トーリー党 2. ウィッグ党 3. 自由党)が生まれ、両党の対立が明らかになった。つぎに登位した国王はカトリックの復活をはかり、反動的な政策をとると、1688年両党は協力して、王の娘メアリとその夫オランダ総督(統領)ウィレムに援助を求めた。ウィレムが兵を率いてイギリスに上陸すると、王はフランスに亡命し、ここに無血の名誉革命が成功した。翌年、ウィレム夫妻は、議会が提出した宣言を承認して、ともに王位につき、その宣言は(u)(1. 権利章典 2. 人権宣言 3. 大憲章)として制定された。

【アメリカ合衆国東部の都市・戦場】65p

1763年以後、重商主義の強化。∴ジョージ3世(1760~1820)[1763年国王布告。]
グレンヴィル内閣[7年戦争の戦費負担解消][アパラチア山脈以西の植民地人の移住禁止。]

1764年、砂糖法[糖蜜関税1/2に軽減し、密輸取り締まり強化。→米三角貿易]

1765年、印紙法[証書、証券、新聞、書物等への印紙貼付強制=言論への弾圧。]

“代表なくして課税なし” パトリック=ヘンリの発言で有名。[ヴァージニア議会]

1767年、タウンゼント諸法(紙・ガラス・鉛)

[英製品不買運動が展開→1770年、茶以外の項目撤廃。]

1773年、[1 **茶**]法[東インド会社に茶の独占販売権] <ワシントン>

←[2 **ボストン**]茶会事件が勃発(サミュエル=アダムズ等)

1774年、ボストン港閉鎖。[マサチューセッツ植民地の自治制限]←第一回、大陸会議[13州の協議体成立。]

1775年、レキシントン・コンコードの戦い。←第二回、大陸会議[ワシントン植民地側の総司令官任命。]

1776年1月、トマス=ペイン「コモンセンス」[共和政のみが市民の自由と両立]

7月、独立宣言[トマス=ジェファソン中心(ロック思想の影響=自然権・革命権)]

1777年、国際義勇軍の参加。

[ラファイエット(仏)・コシュエシコ(波)の参加。サラドガの戦いで勝利。]

1778年、フランス参戦。[仏大使(ベッジャミン)フランクリンの手腕。∴サン=シモンの参加。]

∴武装中立同盟の支持。 1779年、スペイン参戦。1780年、オランダ参戦。

[エカチェリーナ2世提唱。(スウェーデン・デンマーク・プロイセン・ポルトガル)]

1781年、[3 **ヨークタウン**]の戦いで勝利決定。∴連合規約[13州の連合意識確認。合衆国結成。]

1783年、[4 **パリ**]条約[13州独立。(ミシシッピ以東の**ルイジアナ**)]

アメリカ合衆国の成立

1787年、憲法制定会議。(フィラデルフィア)、翌年発効。

[連邦制(連邦政府と州政府の併存)・三権分立・人民主権に基づく代議制。]



設問1 北米植民地およびアメリカ独立戦争に関する問(1~10)に対する正しいものを選択肢(a~e)の中から1つ選びなさい。正解がない場合はfを選びなさい。

問1 18世紀前半までに北米の東部海岸に作られた13の植民地のうち、最後に建設されたのはどこか。

- a ペンシルヴァニア b **ジョージア** c メリーランド d マサチューセッツ e ニューヨーク

問2 1702~13年にイギリスとフランスの間で行われた北米植民地戦争の呼称は何か。

- a ウィリアム王戦争 b ジョージ王戦争 c フレンチ=インディアン戦争 d バラ戦争
e **アン女王戦争**

問3 イギリス本国によるボストン港閉鎖(1774年)を招いた船舶襲撃事件のきっかけとなった法律はどれか。

- a 印紙法 b タウンゼント諸法 c 羊毛品法 d 鉄法 e **茶法**

問4 独立を願う北米植民地人に強くアピールした『コモン=センス』の著者は誰か。

- a ジェファソン b フランクリン c ロック d モンテスキュー e ラ=ファイエット f

問5 アメリカ独立戦争に参戦し始めたときのフランスの蔵相は誰か。

- a テュルゴー b カロンヌ c **ネッケル** d ミラボー e コルベール

問6 アメリカ独立戦争に義勇兵として参加したフランス人空想的社会主義者は誰か。

- a **サン=シモン** b ラ=ファイエット c ミラボー d プルードン e フーリエ

問7 アメリカ独立戦争中、武装中立同盟を提唱した国はどこか。

- a ポルトガル b デンマーク c スウェーデン d **ロシア** e プロイセン

問8 アメリカ・フランス連合軍がイギリス軍を破り、独立戦争の勝利を決定的にした戦いはどれか。

- a イエナの戦い b サラトガの戦い c ゲティスバーグの戦い d レキシントンの戦い
e **ヨークタウンの戦い**

問9 イギリスがアメリカ合衆国独立を承認したパリ条約が締結された年はいつか。

- a 1781年 b **1783年** (他のパリ条約=1713年 1763年) c 1785年 d 1787年 e 1789年

問10 1790年から1800年までアメリカ合衆国の首都だった都市はどこか。

- a ボストン b ニューヨーク c **フィラデルフィア** d ワシントン e ヨークタウン

【中南米の地理・都市・遺跡】 67p

○原住民(インディオ)=モンゴロイド系 約35000年前、ベーリング海峡を渡来(当時陸続き) 前3000年頃、農耕社会の開始。[トウモロコシ中心・カボチャ・ジャガイモ・トマト・タバコ]

○前2000年頃、村落社会の形成。前1000年頃、核アメリカに二大文化圏が形成(青銅器文明)

《メソアメリカ文化圏(中米)》

◎ マヤ文明(3~16世紀) ユカタン半島(メキシコ南部) [←オルマ文化(前1200~前300)を継承。]

多神教社会[神殿(ピラミッド)建築、生贄供養]・太陽暦(365日)・ゼロ概念・20進法・天文学

◎ [1 **アステカ**] 王国(12~16世紀) 都、ティノチティトラン(メキシコ盆地)

貴族政社会[軍事的神権政治=壮絶な人身御供。]←コルテスの征服。

《中央アンデス文化圏(南米)》

◎ [2 **インカ**] 帝国(1200年頃~1533年) 都、クスコ(ペルー南部高原)

太陽神信仰(インカ=太陽の子) 皇帝中心の神権政治。

高度な青銅器文化=[金属(金、銀)も使用。鉄器、車輪なし]

都市計画・巨大石造建築・キープ(結縄文字)使用

ピサロ(バルボアの部下)の侵略。[1533年、クスコ征服。(皇帝アタファルパ捕虜。)]

※インディオ強制労働=精練法(水銀アマルガム法)の蒸気水銀で死亡[黒人奴隷輸入の必要性]

<ラテン=アメリカ諸国の独立>

18世紀末、アメリカ独立の成功・フランス革命によるヨーロッパの混乱。

1807年、ナポレオン1世のイベリア半島侵入。[ポルトガル征服・1808年、半島戦争勃発。]

∴1804年、ハイチ独立成功(トゥサン＝ルベルチュール) [1844年、ドミニカ共和国がハイティから独立。]

[3 クリオーリョ] (植民地生れの白人)・メスティーン(白人とインディアン混血)中心の民族運動。

○メキシコ独立=[イダルゴ(神父)指導。1813年、独立宣言→1821年、達成→1824年、共和国へ。]

◎北部地域=[[4 シモン＝ボリバル] 中心。]

1819年、大(グラン)コロンビア共和国成立。

{1830年、ベネズエラ・コロンビア・エクアドルに解体。}

1824年、ペルー解放。1825年、ボリビア独立。



<シモン＝ボリバル>

○南部地域=[[5 サン＝マルティン] の活躍。] 1816年、アルゼンチン独立。

1818年、チリ独立・1821年、ペルー独立宣言。[ボリバルに援助要請、その後引退。]

△ [6 ブラジル] (帝国) 独立

[ジョアン6世の帰国。1822年、王子ペドロが本国から独立→1889年、共和国。]

○中央アメリカ共和国(1823～1830) [グアテマラ・エルサルバドル・ホンジュラス・ニカラグア・コスタリカ]

∴パナマ共和国は1903年、コロンビアから独立。[T＝ルーズヴェルトの棍棒外交]

※1826年、ラテン＝アメリカ会議(パナマ)シモン＝ボリバル主唱。

7

2005年 関西学院大学 社会学部

次の文中の□に最も適当な語を語群から選び、また下線部に関する問いに答え、記号にマークしなさい。

中央アメリカおよび南アメリカでは、すでに古代からいくつかの文明が形成されていたが、6世紀から14世紀には、ユカタン半島を中心として c イマヤ 文明が、また12世紀から16世紀には、メキシコ高原で d ロアステカ 文明が繁栄した。さらに15世紀後半には、現在のエクアドルからチリにおよぶ広大な地域に①インカ帝国が成立した。

しかし、15世紀末から16世紀にかけて、ポルトガルやスペインは、大西洋に向けた海外進出にのりだし、これらの文明や帝国は、つぎつぎと征服され、滅ぼされていった。やがてスペインは、中央アメリカや、現在の b ハブラジル を除く南アメリカの多くを植民地とし、先住民や②アフリカから連れてきた黒人奴隷を酷使して、現在の c ニボリビア にあたる地域で発見されたポトシ銀山をはじめとする鉱山を開発し、莫大な金銀を独占した。そして17世紀には、③カリブ海諸島を中心にサトウキビ・タバコ・綿花などを大規模に栽培するプランテーションを拡大し、それらの物品をヨーロッパに持ち込んだ。18世紀末になると、アメリカ合衆国の独立やフランス革命に刺激され、これらの植民地では④独立運動がさかんになり、カリブ海諸島を除くほとんどの地域は、19世紀半ばまでに独立をとげたが、独立運動の中心を担ったのは、植民地生まれの白人である

d ホクリオーリョ であった。これらの地域では、独立後も大土地所有制が続いたため、貧富の格差は依然大きく、また民主政治の基盤が弱いため、⑤革命やクーデタが頻発する政情不安という問題を後々までかかえることになった。

[語群]

- | | | | | |
|---|----------|----------|-----------|------------|
| イ | a. オルメカ | b. トルテカ | c. マヤ | d. テオティワカン |
| ロ | a. チャビン | b. チムー | c. ナスカ | d. アステカ |
| ハ | a. コロンビア | b. ブラジル | c. パラグアイ | d. アルゼンチン |
| ニ | a. ペルー | b. ウルグアイ | c. ボリビア | d. ベネズエラ |
| ホ | a. ムラート | b. インディオ | c. メスティーン | d. クリオーリョ |

[問 い]

- ① インカ帝国に関する記述で、誤りを含むものはどれか。
- a. 首都は、クスコに建てられた。 b. 太陽が崇拜され、国王は太陽の化身として専制的な権力をふるった。
- c. 発達した石造技術を持ち、神殿や灌漑施設などを建設した。
- d. アメリカ大陸の他の文明とは異なり、鉄器を使用した。
- ② アフリカで奴隷の主な供給地となった地域はどれか。
- a. ソマリア b. ケニア c. ギニア 118p 121p d. リビア
- ③ カリブ海諸島のなかで、黒人が独立運動の担い手となり、最も早く独立した国はどれか。
- a. ハイチ b. バハマ c. ジャマイカ d. プエルトリコ

- ④ ラテンアメリカの独立運動に関する記述で、誤りを含むものはどれか。
- a. ルイ 18 世は、ウィーン体制の崩壊をおそれ、独立運動を支援した。
 - b. アメリカ合衆国大統領モンローは、アメリカ大陸とヨーロッパの相互不干渉をとらえた。
 - c. イギリスの外相カニングは、市場の開拓を狙って、ラテンアメリカ諸国の独立を援助した。
 - d. サン＝マルティンは、アルゼンチン・チリ・ペルーの独立運動を指導した。
- ⑤ 1959 年に革命政権が樹立されたキューバに関する記述で、誤りを含むものはどれか。
- a. カストロが革命運動の指導者であった。
 - b. 革命政府の土地改革などの政策に反対し、アメリカ合衆国はキューバと断交した。
 - c. ソ連はキューバにミサイル基地の建設を始め、アメリカ合衆国は海上封鎖で対抗した。
 - d. ソ連の解体によって、キューバの革命政権は崩壊した。

8

2005 年 筑波大学

19 世紀前半にヨーロッパで成立したウィーン体制とラテンアメリカ諸国で興隆した独立運動との関係を、以下の語句を用いて述べなさい。400 字以内で解答し、解答文の中では指定された語句に下線を付すこと。

モンロー宣言

シモン＝ボリバル

クリオーリョ

サン＝マルティン

ジョージ＝カニング

ラテンアメリカは、19 世紀初めまで主にスペインとポルトガルの植民地であったが、アメリカの独立やフランス革命の影響を受け、本国がナポレオンの支配下に置かれたのに乗じて独立運動を起こした。1804 年のハイチの独立に続いて、シモン＝ボリバルが 1819 年に大コロンビア共和国を樹立し、大統領となった。またサン＝マルティンは、アルゼンチン、チリ、ペルーの独立を指導した。この 2 人は、植民地生まれの白人であるクリオーリョであり、地主階級でありながら本国からきた官僚や軍人に差別されていたため、独立を強く望んだ。それに対しオーストラリアの外相・宰相メッテルニヒは、神聖同盟の名の下に武力干渉を行おうとしたが、イギリスの外相ジョージ＝カニングはラテンアメリカ市場へイギリス商品売り込むため、独立を支援した。またアメリカのモンロー大統領も 1823 年にモンロー宣言を出し、ヨーロッパ諸国とアメリカ大陸諸国との相互不干渉を唱えた。

第2章 アジア・アフリカの地理・地図 【北アジアの地理・都市】

<アヘン戦争の勃発。> (1840～1842)

1839 年、害毒と銀流出による財政の破綻からアヘンの輸入制限をした林則徐（欽差大臣）の措置からイギリス海軍の広東攻撃始まる。∴ 1841 年広東郊外農民による平英団（三元里事件）抵抗。

[パーマストン内閣(自由党)←グラッドストーン [「随筆イギリス」で批判。]

南京条約 (1842 年) { ○ 5 港の開港。(広東・厦門・福州・寧波・[1 上海]) 107p
○ [2 香港] の割譲。 [林則徐はイリ地方に左遷。]
○ 公行の独占廃止。 ∴ 賠償金の支払い (2100 万ドル) ・対等国交の原則。

1843 年 7 月, 五港通商章程 [治外法権容認] 1843 年 10 月, 虎門寨追加条約 (虎門条約)
[片務的最恵国待遇・関税自主権喪失 (関税協定) = 輸出入税率]

1844 年 6 月, アメリカ (望厦条約) 9 月, フランス (黄埔条約)

<アロー戦争 (1856～1860) [第 2 次アヘン戦争]> ∴ 9 代、咸豊帝 (文宗; 1850～1861)

背景 (口実) イギリス = 清官憲のアロー号臨検に際し、中国人乗員不当逮捕。 {クリミア戦争で協力}

フランス = 広西省での宣教師 (シャブドレーヌ) 殺害事件。

[[3 ナポレオン 3] 世 (1852～1870)]

《ロシアの南下外交との関連に注意》

1858年、広州占領。

{東シベリア総督ムラヴィヨフの画策。}

1858年、〔4 **天津**〕条約

1858年、〔5 **アイグン**〕条約 101p

{ 10港の開港・公使の北京駐在・キリスト教の布教公認 } [黒龍江（アムール川）以北の領有。]
 ∴内地旅行の自由と貿易の承認・河川航行の自由 ∴ウスリー江以東の共同管理。

批准交換の英仏使節団が攻撃され、戦争再開。天津、北京[円明園焼失]の占領で終焉。

1860年、〔6 **北京**〕条約

ロシアの調停＝1860年、（露清）北京条約

天津条約の批准

{ 天津を加え、11港開港。

[ウスリー江以東＝沿海州獲得。]

イギリスに九竜半島1部割譲。賠償金増額

1861年、総理（各国事務）衙門[北京]の設置。

1861年、ウラジヴォストーク開港。

9

2005年 同志社大学 神学部, 文学部

次のA～Cの文を読み、()内に入るもっとも適切な語句を、各語群よりひとつずつ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。同一記号のみ同一語句とする。また、指示にしたがって〔設問1〕と〔設問2〕に答えなさい。

Aヘン吸飲の風習がひろまり、密貿易が増えた中国では、(ア 14. **林則徐**)が(イ 16. **広州**)に派遣されてとりしにまりにあたったが、自由貿易を要求するイギリスとの間でアヘン戦争が生じた。戦争は清の敗北に終わり No.40

1842年に(ウ 20. **南京**)条約が結ばれ、清は(エ 22. **香港**)の割譲や(イ)をはじめとする5港の開港などを認めた。アヘン戦争後、中国の民衆生活は破綻し、暴動が頻発した。1851年、(オ 5. **洪秀全**)が指導する太平天国が、(カ 25. **広西**)省で挙兵し、1853年に(ウ)を占領し、これを天京と名付けて首都とした。この太平軍を破ったのは、(キ 8. **曾国藩**)のひきいる湘軍や、(ク 12. **李鴻章**)のひきいる淮軍など、各地の郷勇であった。かれらは、(ケ 6. **ゴードン**)ひきいる常勝軍などの外国人の協力をえて、1864年に(ウ)を占領し、太平天国は滅んだ。イギリスは、1856年には(カ)省でおこったフランス人宣教師殺害事件で清に抗議していたフランスと共同出兵し、アロー戦争をおこした。英仏軍は(イ)を占領した後、北上して(コ 19. **天津**)にせまり、1858年にいったん条約を結んだが、戦闘再開の後に、(サ)で条約が結ばれ、外国公使の(サ 21. **北京**)駐在、キリスト教布教の自由などを清に認めさせた。その後、清では、外国との和親や西洋文化の摂取に努める洋務運動がおこり、(キ)や(ク)のほか、(シ 9. **左宗棠**)らの漢人官僚が西洋技術の導入につとめたが、社会の本質的な変革は難しかった。

- | | | | |
|----------|---------|------------|---------|
| 1. アマースト | 2. 金玉均 | 3. 黄宗羲 | 4. 洪景来 |
| 5. 洪秀全 | 6. ゴードン | 7. 宋応星 | 8. 曾国藩 |
| 9. 左宗棠 | 10. 大院君 | 11. マカートニー | 12. 李鴻章 |
| 13. 李舜臣 | 14. 林則徐 | 15. 漢口 | 16. 広州 |
| 17. 杭州 | 18. 江西 | 19. 天津 | 20. 南京 |
| 21. 北京 | 22. 香港 | 23. 四川 | 24. 山西 |
| | | | 25. 広西 |

【 華北と江南の地理・都市 】

10

2005年 慶應義塾大学 経済学部

16世紀以降の東アジアの国際秩序と経済について述べた次の文章を読んで、以下の問12～問19に答えなさい。

16世紀に入ると、明を中心とした東アジア国際秩序は大きく変化しはじめた。A北方の周辺部に台頭した勢力は明に侵入を繰り返す一方で、東南沿海でも銀と生糸を取引する密貿易集団の活動がさかんになった。結局、明は従来からの貿易統制政策の一部を緩和することになり、B東アジアの国際交易はさらに進展した。C海外貿易の活性化は中国における商工業と都市の発展をもたらした。農民のなかには生活の糧をもとめて都市に流入する者もあらわれ、明末社会の流動化の一因となった。国際交易の活性化はD東アジアの国際秩序をめぐって政治的な対立を生み、各地で新しい政治勢力が台頭した。そうした新興勢力のひとつが中国の東北地方で力をつけていた清であった。17世紀なかばに明が滅亡すると、清は北京に入り、E支配の基礎をかためていった。その後、F清の領土は拡大を続け、G18世紀には人口も急増し、生地を離れて出稼ぎをしたり、他郷に移住したりする人びとも増えた。19世紀に入ると、欧米諸国の進出をうけて、H東アジアをとりまく国際環境は再び不安定化することになる。

問12 下線部Aに関連して、以下の設問(1)と(2)に答えなさい。

(1) モンゴル勢力を率いて明をおびやかし、16世紀なかばに北京を包囲した人物は誰か。次の1～5のなかから、もっとも適切なものを1つ選び、解答欄(26)にその番号をマークしなさい。

1. アクバル 2. アルタン 3. ヌルハチ 4. パーブル 5. ホンタイジ

(2) のちにこの人物が帰依した宗教としてもっとも適切なものを、次の1～5のなかから1つ選び、

解答欄(27)にその番号をマークしなさい。

1. イスラーム教 2. 黄帽派チベット仏教 3. シク教 4. ゴロアスター教 5. ヒンドゥー教

15世紀初めころ、ツォンカパと呼ばれる天才的な僧が現れて、ラサの東方40kmの地にガンデン大僧院を建て、ゲルー(徳行)、あるいは黄帽派ともいわれる一宗を開いた。黄帽派(ゲルー派)ラマ教がチベットの外へ最初に広まった地方はモンゴリアである。16世紀中ごろから黄帽派信仰が内モンゴリア西部のモンゴル貴族の間に流行しはじめ、ついに1578年大吞アルタン・ハンは青海湖畔でダライ・ラマ3世に謁してその施主となるにいたった。ハンの黄帽派への帰依はモンゴリアへのラマ教弘通の重大な機縁となった。

問13 下線部Bに関連する次の文章1～4のなかから、誤りを含む文章を1つ選び、

解答欄(28)にその番号をマークしなさい。

- 銀の生産が日本とアメリカ大陸で飛躍的に拡大し、16世紀後半には世界の銀の流通量が急増した。
- 明と通商をひらいたポルトガルは、マカオの居住権を認められ、マニラ経由の太平洋航路を開設してアメリカ大陸の銀を中国に運び、絹や生糸、陶磁器などと交換した。
- 徳川家康は朱印船貿易を促進し、東南アジアに進出した日本人は各地で日本町を作って交易を行った。
- ジャワ島のバタヴィアにアジア交易の本拠地を築いたオランダは、台湾にも進出し、そこを拠点に東アジアにおける商業活動を展開した。

問14 下線部Cに関連して、次の文中の空欄(a)～(d)にあてはまるもっとも適切な地名を、以下の語群からそれぞれ1つ選びなさい(重複使用不可)。ただし、(c)と(d)の解答は順不同。

(a)は解答欄(29)に、(b)は解答欄(30)に、(c)は解答欄(31)に、(d)は解答欄(32)に、その番号をマークしなさい。

長江下流域の(a 3. 江南)では、綿織物や生糸の生産がさかんになり、米から手工業原料作物への作付け転換が進んだ。それにともない長江中流域の(b 4. 湖広)が米の生産・移出の新たな中心地となった。国内商業の発展にともない全国的な流通網が整備され、都市には裕福な商人や郷紳が居住し、文化や芸術もさかえた。

(c 5. 山西)出身や(d 2. 徽州 安徽省徽州)出身の商人は、塩や穀物などを扱い、全国的に活躍して資本を蓄積したことで知られる。いずれも政府と密接な関係をもって発展した特権的商人であった。

[語群] 99p 1. 広東 2. 徽州 3. 江南 4. 湖広 5. 山西 6. 山東 7. 陝西

問15 下線部Dに関する次の文章1～4のなかから、誤りを含む文章を1つ選び、解答欄(33)にその番号をマークしなさい。

- 李氏朝鮮は、明が滅ぶ前に清の侵略をうけて服属し、19世紀末まで清の宗主権のもとにおかれた。
- 新興勢力として登場した豊臣秀吉は、2度にわたって朝鮮に出兵したが、明の援軍や、亀船を中心とする朝鮮水軍、民間の義兵による抵抗をうけて失敗した。
- 琉球王国は、島津氏による侵攻をうけて薩摩藩の実効支配下におかれたが、中国への朝貢を続け、日本と中国への両属関係を維持した。

4. 明が滅ぶと呉三桂ら明の遺臣たちは、明と朝貢関係にあった台湾に拠点(鄭成功:鄭氏台湾)を移して反清活動を展開した。

問16 下線部Eに関連して、清朝が推進した施策として適切でないものを、次の1～4のなかから1つ選び、解答欄(34)にその番号をマークしなさい。

1. 軍機処の設置 2. 天朝田畝制度の導入 3. 理藩院の整備 4. 緑營の編成

問17 下線部Fに関連して、以下の設問(1)～(3)に答えなさい。

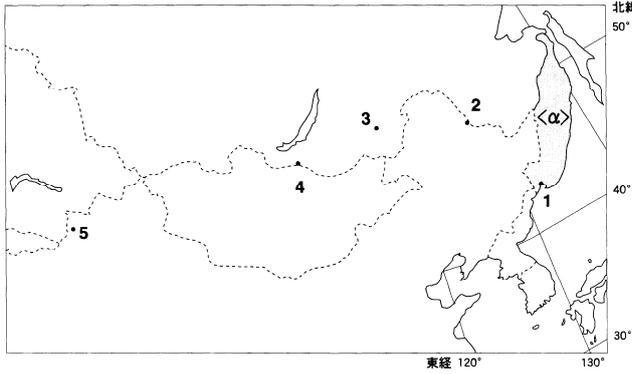
(1) 次の出来事a～dと深く関係する皇帝名を、以下の語群からそれぞれ1つ選びなさい(重複使用可)。

aは解答欄(35)に、bは解答欄(36)に、cは解答欄(37)に、dは解答欄(38)に、その番号をマークしなさい。

- a. キャプタ条約を結んだ。 5. 雍正 b. 台湾を領土とした。 1. 康熙

c. ネルチンスク条約を結んだ。1. 康熙 d. 東トルキスタン全域を占領し、「新疆」の名で領土とした。3. 乾隆

[語群] 1. 康熙 2. 光緒 3. 乾隆 4. 万暦 5. 雍正



(2) 前記のキャプタ条約が結ばれたキャプタの場所としてもっとも適切なものを、次の地図上の

1～5から1つ選び、解答欄 (39) にその番号をマークしなさい(点線は現在の国境線を示す)。

(3) 地図上のαは、19世紀後半にロシアが清から獲得した地域である。それに関連する条約としてもっとも適切なものを、次の1～4から1つ選べ。

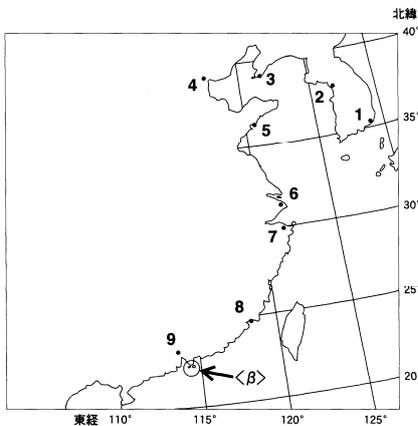
1. アイグン条約 2. イリ条約 3. 下関条約 4. 北京条約

問 18 下線部Gに関連して、中国社会に関する次の文章1～4のなかから、誤りを含む文章を1つ選べ。

1. 18世紀には山地の開発が進み、そこでも育つサツマイモやトウモロコシの栽培が普及して、急増する人口を支えるうえで一定の役割をはたした。
2. 清朝は、18世紀に、人口圧力を緩和する政策のひとつとして、福建や広東から東南アジアへの移民を積極的に奨励した。
3. 白蓮教徒の乱は、移住民が流入した四川・湖北・陝西三省の省境地帯で18世紀末に発生し、その後拡大して19世紀初頭まで続いた。
4. 18世紀初めには、税制を簡素化し、丁銀を地銀にくりこんで徴収する地丁銀制がはじまった。

問 19 下線部Hに関連する以下の設問(1)～(3)に答えなさい。

(1) 19世紀になると、清朝と欧米諸国との関係は大きく変化した。次の1～5の出来事を年代順に並べかえ、年代の古い順に解答欄 (42) 2 (43) 3 (44) 1 (45) 4 (46) 5 に、その番号をマークしなさい。



1. アロー戦争の勃発 3 → 北京条約 (太平天国の乱 郷勇 1860年常勝軍 → 洋務運動 中体西用)
2. イギリス東インド会社の1833, 34年中国貿易独占権の廃止 1 → アヘン戦争
3. 公行の廃止 2 = 南京条約
4. 総理各国事務衙門の設置 (1861年 ← 朝貢貿易) 4 ← 北京条約
5. 清仏戦争の勃発 5 ← 洋務運動 (中体西用)

(2) 19世紀にはアジア各地の港が開かれ、対欧米貿易と同時に、アジア諸地域間の貿易も進展した。次のa～eの位置としてもっとも適切なものを、次の地図上の

1～9から選びなさい。

aは解答欄 (47) 8 厦門 107p に、bは解答欄 (48) 9 広州 107p に、cは解答欄 (49) 6 上海 107p に、dは解答欄 (50) 4 天津 103p に、eは解答欄 (51) 1 釜山 133p に、その番号をマークしなさい。 a. 厦門 b. 広州 c. 上海 d. 天津 e. 釜山

(3) 地図上のβが示す地域がイギリスから中国に返還されたのは何年か。次の1～5のなかから1つ選べ。

1. 1945年 2. 1949年 3. 1978年 4. 1997年 マカオ 1999年 5. 2001年

第3章 戦争・領土拡大の整理 【ドイツ三十年戦争】

ハプスブルク家、フェルディナント2世 [1617年、ボヘミア王就任。神聖ローマ皇帝に就任(1619～1637)]

フェルディナント1世 [1 イエズス] 会の影響をうけて新教徒を弾圧。

(弟) カール 《ドイツ三十年戦争》 = 1618年、プラハ王宮襲撃事件が契機。

フェルディナント2世 ∴ 1619年、ボヘミア王 [ファルツ侯フリードリヒ (カルヴァン派)]

フェルディナント 3 世

(1) ベーメン・ファルツ戦争 (1618~1623)

レオポルト 1 世

カール 6 世 ヨーゼフ 1 世 マリア=アントニア

(2) デンマーク戦争 (1625~1629)

(娘) マリア=テレジア = フランツ 1 世 (ロートリンゲン侯)

[クリスチャン 4 世参戦]

ヨーゼフ 2 世 マリー=アントワネット = ルイ 16 世

(3) [267 スウェーデン] 戦争 (1630~1635) グスタフ (2 世) = アドルフ [北欧の獅子]



[皇帝軍ヴァレンシュタイン・総司令官ティリ] ∴リュッツエンの戦い



<グスタフ=アドルフ>

(4) スウェーデン・フランス [新教徒側で参戦] 戦争 (1635~1648)

<ヴァレンシュタイン>

∴プロテスタント諸侯の多くは皇帝側について、他国の直接介入に抵抗。

1648 年、[2 ウェストファリア] 条約の締結。 [ミュンスターとオスナブリュック]

○領邦国家体制の確立 [神聖ローマ帝国の一領邦化]

※グロティウス

○スイスとオランダの独立承認。

○カルヴァン派の公認。

「戦争と平和の法」

○領土分割 [スウェーデン=バルト海南岸 / フランス=アルザス・ロレーヌ / フランデングル領の拡大。]

59 p 155 p

【スペイン継承戦争】

◎ルイ 14 世 (1643~1715) [5 歳で即位。ウェストファリア条約での領土拡大。]

宰相マザラン (1642~1661)

[フロンドの乱鎮圧 (1648~1653) = 仏貴族の最後の抵抗失敗]



親政時代 (1661~1715) [絶対王朝の全盛期。太陽王ルイ = 「朕は国家なり。」]

<ルイ 14 世>

財務総監 [3 コルベール] (1665~1672) の重商主義 [保護関税政策。王立マニュファクチュアの設立。]

1664 年、東インド会社再建。 [ポンディシエリ・シャンデルナゴル]

1682 年、ルイジアナ領有 [ラ=サールのミシシッピ川探険 (1664 年、西インド会社)]

《ルイ 14 世時代の侵略戦争》

(1) 南ネーデルラント継承戦争 (1667~1668) [フェリハ 4 世の死後、フランドル侵入 (←英、蘭)]

(2) オランダ戦争 (1672~1678) [蘭への復讐戦。(奥・西・英の反対)]

∴オレンジ公ウィリアム (1672~1689)

∴蘭英戦争との関連。 [第一次 (1652~1654) ・第二次 (1665~1667) ・第三次 (1672~1674)]

1673 年、スペイン・オーストリア参戦。1674 年、イギリスまでオランダ側に参戦。

(3) ファルツ戦争 (1689~1697) [独への侵攻←アウグスブルク同盟 (英・蘭・奥)]

(4) スペイン継承戦争 (1701~1713)

∴ウィリアム 1 世 (1689~1702)

[カルロス 2 世の死 (スペイン=ハプスブルクの断絶。) ←孫フェリペを即位。]

<英中心に奥・蘭の反対。>

北米でアン女王戦争が展開。>

1713 年、[4 ユトレヒト] 条約 [仏と西が合同しないことを条件にフェリハ 5 世即位承認。]

※英の領土拡大

[ジブラルタル・ミノルカ島 (旧スペイン領) ∴アシエント権の獲得。]

[黒人奴隷の専売権を英が獲得。(18 世紀に黒人奴隷急増。)]

[ハドソン湾・アカディア・ニューファンドランド (旧フランス領)]

∴1701 年、プロイセンの王号獲得。

∴1714 年、ラシュタット条約 [カール 6 世=ネーデルラント南部 (旧スペイン領)]

※1685 年、ナトの王令廃止により、ユグノー (商工業者中心) が多数国外へ亡命し、経済は衰退する。

つぎの文を読み、以下の設問に答えなさい。

16世紀フランスではカルヴァン派の新教徒であるユグノーの勢力が増大し、旧教徒との対立が激化した。国王 21 と母后カトリーヌ＝ド＝メディシスの治世下において、1562年にユグノー戦争⁽²²⁾という30年以上にわたる内戦が勃発した。スペインが旧教側に、イギリスが新教側につくなど、国外からの干渉もあり国内は大混乱に陥った。1572年にはサンバルテルミーの虐殺が起き、数多くの新教徒が殺された。その後アンリ4世⁽²³⁾がユグノー戦争を終結させ、王国の中央集権化に努めた。続くルイ13世の時代には宰相リシュリューが、国内では貴族やユグノーの勢力をおさえ、国外では三十年戦争⁽²⁴⁾に干渉して、王権のさらなる強大化をすすめた。ルイ14世が幼少にして即位すると、宰相マザランが、対外的にはウエストファリア条約⁽²⁵⁾でフランスの優位を確保し、国内では 26 を鎮圧し、絶対王政をさらに堅固なものにした。マザランの死後、親政を開始したルイ14世⁽²⁷⁾のもとで、フランス絶対王政は最盛期を迎え、国内では華やかな古典主義⁽²⁸⁾文化が開花した。しかしスペイン継承戦争⁽²⁹⁾をはじめとする数多くの戦争⁽³⁰⁾は財政を圧迫し、国民に大きな負担となった。

[設問]

(21) 空欄21に入る人名を選びなさい。

(ア) シャルル7世百年戦争 (イ) シャルル8世イタリア戦争 (ウ) シャルル9世 (エ) シャルル10世七月革命

(22) ユグノー戦争中1562～98に起こった出来事ではないものを選びなさい。

(ア) スペインがレバントの海戦でオスマン帝国艦隊に勝利した。

(イ) **アウグスブルクの宗教和議が成立した。1555年**

(ウ) ネーデルラント連邦共和国の独立が宣言された。 (エ) イギリスがスペインの無敵艦隊を破った。

(23) アンリ4世に関連する記述として誤っているものを選びなさい。すべて正しい場合は(オ)を選びなさい。

(ア) ユグノーの指導者であったが、カトリックに改宗した。 (イ) ブルボン朝を開いた。

(ウ) ナントの勅令を発した。 (エ) **フランス学士院(アカデミー＝フランセーズ)を創設した。**

(24) 三十年戦争に関連する記述として誤っているものを選びなさい。すべて正しい場合は(オ)を選びなさい。No.45

(ア) きっかけはパーメンの新教徒が起こした反乱であった。 (イ) スペインは旧教側にたって参戦した。

(ウ) フランスは新教側にたって介入した。

(エ) **傭兵隊長ヴァレンシュタインが新教側にたって活躍した。**

(25) ウェストファリア条約に関連する記述として誤っているものを選びなさい。すべて正しい場合は(オ)を選びなさい。

(ア) スウェーデンは北ドイツに領土を獲得した。

(イ) **イギリスはジブラルタルを獲得した。**

(ウ) 神聖ローマ帝国の分裂状態は決定的となった。

(エ) スイス・オランダの独立が正式に認められた。

(26) 空欄26に入る語句を選びなさい。

(ア) ジャックリーの乱 (イ) **フロンドの乱** (ウ) ヴァンデーの農民反乱 (エ) ワット＝タイラーの乱

(27) ルイ14世に関連する記述として誤っているものを選びなさい。すべて正しい場合は(オ)を選びなさい。

(ア) コルベールを登用し重商主義政策を進めた。 (イ) ナントの勅令を廃止した。

(ウ) ヴェルサイユ宮殿を建造させた。 (エ) **三部会を開催した。**

(28) つぎのうち、古典主義の作家でないものを選びなさい。

(ア) コルネイユ (イ) モリエール (ウ) **ラブレー** (エ) ラシーヌ

(29) スペイン継承戦争に関連するつぎの記述の下線部のうち、誤っているものを選びなさい。すべて正しい場合は(オ)を選びなさい。

スペインでは国王カルロス2世⁽⁷⁾の死によりスペイン・ハプスブルク家が断絶すると、ルイ14世の孫であるフェリペ5世⁽⁴⁾が即位したが、オーストリア・イギリス・オランダ⁽⁹⁾などがこれに異を唱え、スペイン継承戦争が起こった。結局、パリ条約⁽⁴⁾で、スペイン・フランス両国が合同しないという条件でブルボン家のスペイン王位継承が認められた。

(30) ルイ14世がおこなった戦争を選びなさい。

(ア) **南ネーデルラント継承戦争** (イ) オーストリア継承戦争 (ウ) イタリア戦争 (エ) 百年戦争

次の文章を読み、下線部(あ)～(え)に関する以下の設問に答え、空欄(ア)～(ス)に以下の語群からもっとも適当な語句を選んで解答欄に番号で記入し(同一記号は同一語)、また、下線部(A)～(D)に関連する以下の短文(a) (b)それぞれの正誤を判断し、(a) (b)とも正しい場合には数字1を、(a)のみ正しい場合には数字2を、(b)のみ正しい場合には数字3を、(a) (b)とも誤っている場合には数字4を解答欄に記入しなさい。

フランスは、エドワード3世の時代にイギリスとの間で始まった(18 ア百年戦争)の時期をへて、(A)国内にあったイギリス領をほぼ一掃し、中央集権的な国民国家への道を歩んだ。しかし(あ)宗教改革の影響によって、16世紀なかばには、ユグノーの勢力が無視できなくなった。1560年、(28 イシャルル9世)が幼少で王位につくと、母親の摂政(8ウ カトリクス)のもとで、新旧両宗派の争いは貴族間の党派争いと結びつき、1562年、(B)ユグノー戦争がおこった。これには外国勢力の介入があり、宗教問題よりも国家の統一を優先しようとする人びとがふえていった。1589年、ユグノーの指導者であった(25 エ アンリ4世)が(22 オ ブルボン)朝を開いた。(エアンリ4世)は国益の見地から旧教に改宗し、そのうえで、1598年、(い)ユグノーにも大幅な信教の自由と市民権を認めた勅令を發布し、内戦は終結した。フランスの王権はこの(オブルボン)朝のもとで強化された。(エアンリ4世)の後(29 カ ルイ13世)が幼少で即位すると、(7キ リシュリユー)が宰相として王を補佐した。(17ク 三部会)は、1789年までふたたびひらかれることがなかった(17ク 三部会)を停止して貴族やユグノーをおさえ、さらにドイツでおこった(ロ)三十年戦争に干渉して、ハプスブルク家に対抗した。ついで1643年に幼少の(30ケ ルイ14世)が即位すると、宰相(3コ マザラン)の強権政治に反発する(5)高等法院や貴族が反乱をおこしたが、政府はまもなくこれを鎮定し、絶対主義をさらに強化した。1661年、親政を開始した(ケルイ14世)は、以後強大な権力をふるった。時の(え)財務総監は(2サ 重商主義)政策をとり東インド会社を再建し、王立マニュファクチュアを創設した。(ケルイ14世)の後はスペイン王女だったので、1700年、スペインのハプスブルク家が断絶したとき、(ケルイ14世)の孫が(27シ フェリペ5世)として王位をついだ。ハプスブルク家のオーストリアは、新大陸のスペイン植民地に利害を持つイギリス・オランダなどと連合してフランスと(ロ)スペイン継承戦争を戦い、結局、(12ス ユトレヒト条約)によって、スペイン・フランス両国が合同しないという条件で、(22オ ブルボン)家のスペイン王位継承が認められた。

〔語群〕

- | | | | |
|--------------|-------------|----------------|------------|
| 1. 重農主義 | 2. 重商主義 | 3. マザラン | 4. テュルゴー |
| 5. ボシュエ | 6. デイドロ | 7. リシュリユー | |
| 8. カトリクス | 9. マリア=テレジア | 10. パリ条約 | |
| 11. ティルジット条約 | 12. ユトレヒト条約 | | |
| 13. 枢密院 | 14. 国民公会 | 15. 模範議會 | 16. 名士会 |
| 17. 三部会 | 18. 百年戦争 | 19. ファルツ(継承)戦争 | |
| 20. ばら戦争 | 21. ヴァロア | 22. ブルボン | 23. カルロス2世 |
| 24. アンリ2世 | 25. アンリ4世 | 26. フェルナンド5世 | |
| 27. フェリペ5世 | | 28. シシャルル9世 | |
| 29. ルイ13世 | | 30. ルイ14世 | |

〔短文群〕

- (A) (a) テューダー朝初代のイングランド王ヘンリ2世は、フランス西半部をも領有して大勢力を築いていた。
 (b) 百年戦争の結果、ギューエンヌだけはイギリス領として残された。 4
- (B) (a) サンバルテルミの虐殺をきっかけにユグノー戦争が始まった。
 (b) ユグノー戦争の背後にある宗教的対立解決のためにトリエント公会議が開かれた。 4
- (C) (a) 三十年戦争は、ベーメン(ボヘミア)の新教徒が、ハプスブルク家の旧教化政策に反抗したのをきっかけに始まった。
 (b) 三十年戦争はウェストファリア条約で終結した。 1
- (D) (a) スペイン継承戦争の際に北アメリカ植民地で戦われた英仏戦争は、アン女王戦争と呼ばれる。
 (b) 七年戦争の際に北アメリカ植民地で戦われた英仏戦争は、ジョージ王戦争と呼ばれる。 2

〔設問〕

- (あ) ユグノーにもっとも強い影響を与えた宗教改革者は誰か。 **カルヴァン**
- (い) この勅令を何と呼ぶか。 **ナントの勅令**
- (う) この反乱を何と呼ぶか。 **フロンドの乱**
- (え) この時の財務総監は誰か。 **コルベール**

(1)・(2)・(3) **モノの流れ (コーヒー・お茶・砂糖)**

{**西欧の植民地政策・三角貿易など**}

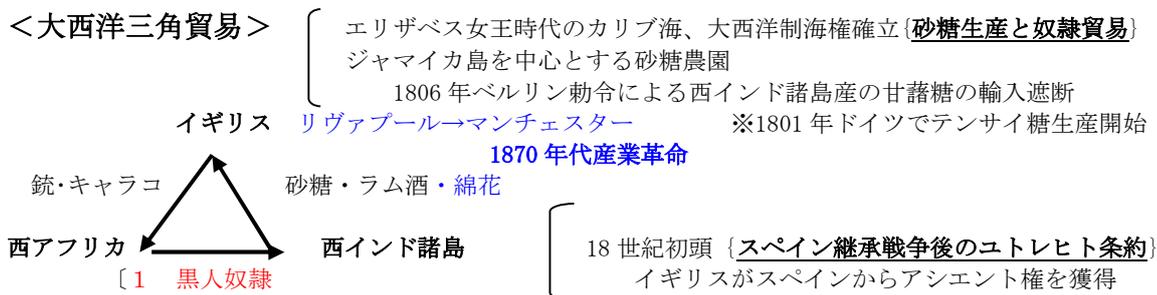
(4)・(5)・(6) **ヒトの流れ (移民と移住の歴史) [奴隷貿易など]**

(7) **文字 (言語) の歴史 第6講 紙 (書写材料) の歴史 [東西交渉史など]**

(8) **自然科学・病気の歴史 [16世紀以降のヨーロッパ文化中心]**

お茶の歴史・砂糖の歴史(三角貿易の実態)

<大西洋三角貿易>



<インド洋・中国の三角貿易>

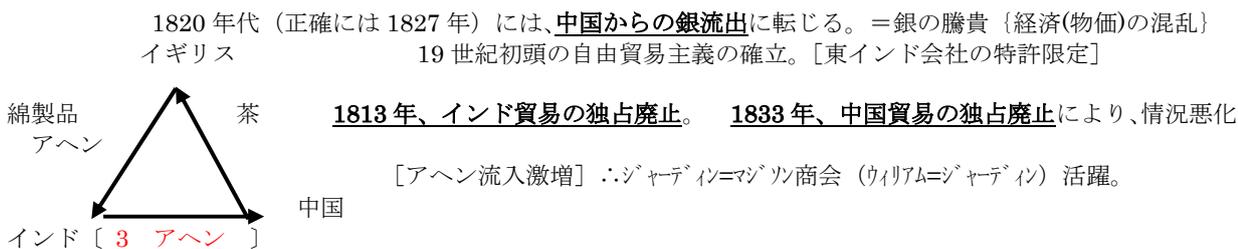
1760年代、産業革命を経て資本主義が成熟し、19世紀初頭には自由貿易体制を確立しようとしているイギリス

イギリス東インド会社 [18世紀後半、中国貿易を独占。]

片貿易の形態。 [イギリス] = **銀** ↔ [**2 茶**]・絹・陶磁器 = [中国]

∴ 産業革命後、飲茶の習慣が普及。 [1784年以来急増。] {貿易港広州一港に限定。(乾隆帝)}

インド産のアヘンを密輸出することにより、片貿易打開し、中国銀を回収する。



アヘン戦争の勃発 (1840~1842) 1839年、害毒と銀流出による財政の破綻からアヘンの輸入制限をした 林則徐 (欽差大臣) の措置からイギリス海軍の広東攻撃始まる。∴ 1841年、広東郊外農民による平英団 (三元里事件) 抵抗。 [パーマストン内閣(自由党)← [**4 グラッドストーン**] [「随筆イギリス」で批判。]

南京条約

○ 5港の開港。 (広東・廈門・福州・寧波・上海) ○ 香港の割譲。

○ 公行の独占廃止。 ∴ 賠償金の支払い (2100万ドル)・対等国交の原則。

第1講 モノの流れ 入試実践編(最新問題から)

13 2003年 立命館大学 国際関係, 文, 経営

次の文章の **A** ~ **H** に最も適切な語句を記入し、下線部[1]~[5]についてあとの問いに答えよ。

「さいた、さいた、チューリップの花が～」と童謡にも歌われるチューリップは、中央アジア、西アジアが原産である。16世紀中葉に出版された植物学者ゲスナーの本は、西ヨーロッパのチューリップについてはじめて記述したもので、このチューリップは **□** オスマン帝国 からもたらされたといわれている。すなわちオスマン帝国を訪れたヨーロッパ人が、はじめてチューリップに出会い、一輪のチューリップをターバンにさすオスマンの粋な習慣を目にして、ヨーロッパにチューリップを持ち帰ったので

あった。1602年に東インド会社を設立した[Aオランダ]では、チューリップが熱狂的に売買され、品種改良が進められた。そのためにチューリップが[A]の花と思われるのも無理はない。

このように、今日あたかもヨーロッパ起源と考えられがちな文化が、実はオスマン帝国をはじめとする西アジア・イスラーム世界の文化に発していることは多々見られる。例えば、コーヒーはまずイエメンで飲まれ始め、その後、エジプトに伝わり、1554(あるいは1555)年オスマン帝国の都、^[2]イスタンブルに世界初のコーヒーハウスが開店した。コーヒーハウスは、またたく間に広がり、男たちが身分の差を越えて集い、語り合う公共空間となった。コーヒーハウスがヨーロッパに伝わり、世論形成の場として近代社会において大きな役割を果たすのは、これより100年以上もあとのことであった。加えて、コーヒーとともに欠かせない砂糖の英語 sugar も、アラビア語に由来している。

オスマン帝国はスルタン、**Bスレイマン1世**の時代に最盛期を迎えた。1526年、このスルタンは、**Cモハーチ**の戦いでハンガリー王ラヨシュ2世を破り、1529年には**Dウィーン**を1ヶ月余り包囲し、ヨーロッパに脅威を与えた。東方では^[3]サファヴィー朝と覇を争い、1534~35年のバグダード遠征で、イラクとアゼルバイジャンとを支配下に置いた。さらに地中海では、1538年にギリシアの**Eプレヴェザ**沖における戦いで、海軍提督バルバロス=ハイレッティン率いるオスマン海軍がスペイン・ローマ教皇・**Fヴェネツィア**連合艦隊を撃破し、地中海域をほぼ制圧することとなった。とりわけ**B**は、ハプスブルク家との対抗上、ヴァロワ家の^[4]**Gフランソワ1世**と同盟関係を結んだ。ハプスブルク家のカール5世が1555年に**Hウグスブルクの和議**で国内のプロテスタント諸侯に妥協を余儀無くさせられたのは、オスマンの脅威が大きく影響していたからである。このように^[5]イスラーム世界とヨーロッパ世界とは密接に関連していたのであり、両者の相互関係を考えることが歴史を学ぶ上で重要である。

[1] オスマン朝において「チューリップ時代」と呼ばれる時期がある。この「チューリップ時代」の説明として正しいものを記号で選べ。

- a. 14世紀末から15世紀初頭のバヤジット1世がバルカン・アナトリア両方面で諸勢力を次々に破った時期。
- b. 16世紀初頭、セリム1世がマムルーク朝を滅ぼした時期。
- c. 18世紀前半、アフメト3世治世に西欧趣味が流行した時期。 **ルイ15世時代**
- d. 19世紀前半、西欧的服装改革が進められた時期。
- e. 19世紀末のアブデュル=ハミト2世時代に西欧化が進んだ時期。

[2] イスタンブルは1453年にメフメト2世によって征服、再建された。この都市の再建にあたって、他のイスラーム諸都市における建設、再建等でも見られる信託財産制度が用いられた。例えば、商店や市場におけるある個人の利益を個人の権利としては放棄して、モスクの建設や維持に充当させるという方法である。このような信託財産制度、あるいは信託財産を何と呼ぶか。 **ワクフ 所有権移転の永久停止**

ワクフとは政府または個人がモスク、マドラサ、病院、孤児院などに、その維持のため土地を寄進する慈善のこと

[3] イラン中央部にあり、17世紀の最盛期には人口50万人を有して「世界の半分」とうたわれ、世界的にみても江戸、北京、イスタンブル、ロンドン、パリに匹敵する大都市となったサファヴィー朝の首都名を述べよ。 **イсфаハーン**

[4] オスマン帝国が、この王の国をはじめ西欧諸国に授与した、通商や領事裁判権等を保障した特権を何と呼ぶか。

カピチュレーション

カピチュレーションとは通商特権のことで、12世紀頃からオスマン帝国など東方諸国においてヨーロッパ諸国の領事が国家組織の弱体、文化の相違などから、自国人の生命・財産保護を行なったことに端を発し、次第に先進国の側から、自国人の生命、財産を発展途上国の裁判にゆだねることを危険として、この制度が要求された。しかし、この制度は発展途上国の反発を招き、国際社会の発達に従い19世紀末から次第に姿を消していった。

- [5] (a) イスラーム教徒に課せられている五行の義務とは、信仰告白、礼拝、巡礼、喜捨と何か。 **断食**
- (b) イスラーム教においては、モーセもイエスも預言者であると認めた上で、最後の最も優れた預言者を誰と考えているか。 **ムハンマド**
- (c) イスラーム科学なくして12世紀ルネサンスはあり得なかった。イスラーム世界を代表する10世紀末から11世紀初頭の医学者・哲学者で、西欧の医科大学の教科書に使用された『医学典範』を記したのは誰か。

イブン=シーナー (サーマーン朝出身)

次の文章は茶と砂糖の歴史について記述したものである。これを読んで下記の問いに答えなさい。

一説に茶樹の原産地は中国の①雲南省であるとされているが、喫茶の風習は漢族にはじまったものと考えられる。より具体的に言えば、南北朝時代頃に茶を飲む習慣は漢族の上流階級に普及し、②華北を統一した北魏は、南朝からの使者が来ると、彼らを茶でもてなしたといわれる。また喫茶が一般の人々にまで普及したのは唐代であって、「長恨歌」で知られる(1白居易(白樂天))は、その詩の中にしばしば茶を詠みこんでいる。このような中国の茶がヨーロッパ人に知られるようになったのは、16世紀頃のことであり、『幾何原本』を翻訳した宣教師の(2マテリッチ)は、その書簡の中で、日本茶と中国茶の違いについて言及している。そして③中国とヨーロッパの直接交易がはじまると、ヨーロッパ、特にイギリスで茶は広く受け入れられることになった。他方ヨーロッパ人が砂糖についてかなり詳しい知識を持つようになったのは、④十字軍以降のことといわれるが、ヨーロッパでは最初、砂糖はおもに⑤薬として用いられていた。たとえば砂糖が⑥肺病の治療に役立つといった考えは、かなり後世にいたるまでヨーロッパでは信じられていたが、結局砂糖は食料として、特にイギリスで受容された。しかしイギリスにおける砂糖は、茶と結びつくという特異な形で広がってゆく。これは、東洋からもたらされた高級品の茶と、同じく貴重品であった砂糖をあわせて食用に供することが、富裕な階層にとって一種のステイタス・シンボルになったからだといわれている。しかしイギリスで、砂糖を入れた茶はいつまでも一部の上流階級の独占物であったわけではない。イギリスにおいて喫茶の風習が普及してゆく背景には、コーヒー・ハウスの存在が見落とせない。コーヒー・ハウスでは茶・コーヒー・チョコレートが供され、そこではさまざまな情報が交換された。たとえば⑦クロムウェルらによってなされたピューリタン革命が終結し、(31660)年にフランスから帰国したチャールズ2世によって王政復古が実現した頃、イギリスでは(4トリー)党、ホイッグ党という一種の政党が生まれたが、その背景にはコーヒー・ハウスにおける世論が少なからず影響したとされている。

さて茶の普及は、イギリスではじめて内閣を組織した(5ウォルポール)首相が茶の関税を一気に20%近く引き下げたため、ますます加速するが、その需要は当初、イギリス東インド会社による中国茶の独占的な輸入によってまかなわれた。他方砂糖に対する需要の増大と対応する形で、カリブ海に浮かぶ島々はヨーロッパ各国によって植民地とされ、そこには砂糖キビを栽培する膨大な数のプランテーションが展開していった。皮肉だったのは、イギリスがカリブ海のマルチニクとグアドループをフランスから奪取したところ、両島からの砂糖の流入がイギリス本国の砂糖の価格を下げるとして、カリブ海の他の島のイギリス人砂糖プランターが反対運動を展開し、結局(61763)年に結ばれたパリ条約では、イギリスは別にカナダを獲得することになったことである。いずれにしても、このようなプランテーションでは⑧アフリカから強制的に運ばれてきた大量の奴隷が酷使され、⑨悲惨な運命にたえなければならなかった。

このように、砂糖や茶の歴史を通して私達は、それらの品物によって一つにつながれ、地球規模で歴史を連動させてゆく近代社会のシステムをかいま見ることができるのである。

[1] (1)～(6)に最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。

[2] 下線部について、以下の問いに答えなさい。

- ① 清代初頭にこの地に封ぜられ、のちに反乱を起こした人物の名前を書きなさい。 呉三桂
- ② 北魏が華北を統一した時の首都の名を当時の呼称で記しなさい。 平城
- ③ 中国のヨーロッパとの貿易港が廣州一港に限定された年代を記しなさい。 1757 プラッシーの戦い
- ④ 十字軍の派遣を決めたクレルモン公会議が召集された年代を記しなさい。 1095
- ⑤ これは十字軍が接触したアラビア医学の知識を踏襲したものであるが、『医学典範』を著わしたイスラームの医学者も砂糖の効用について同様のことを述べている。この人物の名前を記しなさい。 イブン=シーナー
- ⑥ 明治以降の日本と同じく、肺病はヨーロッパでもロマン化された病気であった。
『チャイルド=ハロルドの遍歴』などの作品を残したイギリスの詩人も、常日頃から「自分は肺病で死にたい」ともらしていたと伝えられている。この人物の名前を記しなさい。 バイロン
- ⑦ 彼が率いた軍隊の名前を記しなさい。 鉄騎隊
- ⑧ アフリカにおける奴隷貿易の独占権をイギリスが獲得した、1713年に結ばれた条約の名前を記しなさい。
- ⑨ これら植民地のうち、最初に独立した黒人国家の名前を記しなさい。 ユトレヒト条約 ※アフリカに注意
ハイチ (共和国)

18 世紀のヨーロッパ世界では、消費生活のさまざまな面で変化が生じた。たとえばそのひとつに、茶の消費をあげることができ。茶の消費習慣の拡大が、イギリスの対外貿易・対外関係とどのように結びついていたのかを、18 世紀から 19 世紀半ばにかけての時期について、イギリスのアメリカ植民地ならびにアジアとの関係を中心に、180 字以上 200 字以内で、具体的に、かつ、わかりやすく説明しなさい。解答には必ず下記の 3 つの語句をすべて用いること。なお、次記の語句の使用にあたっては、それぞれ初出の際に下線を付すこと。

〔語 句〕 東インド会社 ポストン茶会事件 アヘン

イギリス政府＝茶法を制定しアメリカ植民地での茶の独占販売権を東インド会社に与えると、

反発した植民地はポストン茶会事件をきっかけに 18c 末独立戦争を起し、独立を達成した。

中国茶を輸入し銀で支払う片貿易に苦しんでいた東インド会社はアメリカ植民地を喪失して益々経営難となる中国の茶を本国へ、綿製品をインドへ、インド産のアヘンを中国へ運ぶ三角貿易を開始し、アヘン戦争を誘発

第 4 講 ヒトの流れ

16 2003 年 青山学院大学 経営

次の文章を読んで、以下の設問に答えよ。

今日の世界大の経済活動の端緒は「大航海時代」に開かれた。地中海経由の東方貿易で利益を独占していた

〔A イタリア〕商人とイスラーム商人の手を経ず、直接香辛料を入手したいという欲求などを背景に、15 世紀の末、イベリア諸国が新航路の開拓に乗り出すのである。まず〔B ポルトガル〕が東回りでインド航路を開拓。以後、武力でインドや東南アジアに進出し、香辛料貿易で利益をあげた。一方〔C スペイン〕は、西航してインドへの近道を求め、結局、アメリカに到達。先住民族の文明を武力で滅ぼして、先住民インディオを大農園や銀山で半ば奴隷として酷使、このためインディオの人口が激減するとアフリカから黒人奴隷を輸入して植民地経営を行った。またこの時期、⁽¹⁾〔アフリック〕教会もイベリア諸国の植民政策と結びついてアジアや中南米に伝道。高度な文明をもつ中国・日本では失敗したが、中南米では征服と植民地化という大きな流れのなかで改宗も達成されていった。今日、中南米が(A)教会最大の信者集団になっている背景にこうした一面があるのも事実である。

イベリア諸国の海外進出によって、⁽²⁾〔16 世紀にヨーロッパとアジア・アメリカ・アフリカを結ぶ世界規模の経済活動が成立し、その中心は地中海から大西洋沿岸に移った。〕またヨーロッパでは、中南米から大量の銀が流入したため、銀で鑄造した貨幣の価値が下落して〔イ価格革命〕が起こり、固定地代に依存していた封建領主を没落させる一方、商工業者を成長させた。

富を蓄えた大商人は、⁽³⁾〔農民や手工業者に道具や原料を前貸しして製品を買い取る手工業や、⁽⁴⁾労働者を作業場に集めて分業生産を行う手工業を〕展開する。従来、生産・市場を統制する〔ウギルト〕の正規組合員である親方が独立的に生産を営んでいたのに対し、これらのシステムでは、原料や設備、すなわち★を有する者が、〔ウ〕に規制されることなく、賃金労働者を雇って自由に商品を生産したわけで、ここに★主義経済の萌芽を認めることができる。

17 世紀にはイベリア諸国に代わって、まず、〔C〕から独立した〔D オランダ〕が、1602 年に東インド会社を設立して東南アジア貿易を制した。これは複数の商人が共同で出資し事業を一本化することで、利益とともにリスクも分配することをはかった組織で、この意味で〔エ株式〕会社の先駆とされる。

18 世紀には、〔D〕との 3 度にわたる戦争に勝って海上権を奪った〔E イギリス〕と、同じく〔5〕〔国家主導の貿易で世界の富を自国に集中させよう〕としていた〔F フランス〕とが植民地抗争を展開。結局〔E〕が北米やインドの植民地を手中におさめ、世界市場を独占する地位を築いた。

こうして〔E〕は、⁽⁶⁾〔ヨーロッパから武器・雑貨をアフリカに輸送して黒人奴隷と交換し、それをアメリカで砂糖や綿花などと交換してヨーロッパに持ち帰る貿易を〕支配し、さらに前述の手工業の発達にともなって、★を蓄えた。他方、⁽⁷⁾〔農業でも大地主が土地を併合して大規模経営に転じたため、土地を奪われた農民は賃金労働者となった。〕こうした★と労働力、そして石炭や鉄などの豊富な資源を背景に、産業革命が開花するのである。

産業革命によって手工業は没落し、動力を用いる工場制大工業がひろまった。その結果、大工場を経営する★家が多数の労働者を支配する★主義経済が本格的に確立する。〔オアダム=スミス〕は『諸国民の富(国富論)』(1776)で、自由競争こそ社会の福利を増進すると説いたが、現実には★家が利潤追求に走るあまり、女性や子供の酷使といった労働問題や治安・衛生などの社会問題が発生した。その結果、労働組合が結成され、さらには⁽⁸⁾〔生産手段を公有化して自由競争をなくし、経済上の平等や全体の福祉を〕

はかるうとする新たな思想が生まれてくるのである。

- 問1 空欄A～Fに当てはまる国名を記せ。高校教科書でも用いられている最も一般的な現代の国名のカタカナ表記を用いること。A～Fすべてがあっている場合のみを正解とする。
- 問2 空欄ア～オに当てはまる語句・人名を記せ。
- 問3 下線(1)について。伝道の急先鋒にたった司祭修道会の名称を記せ。イエズス会
- 問4 下線(2)について。この経済構造上の変革をなんというか。商業革命
- 問5 下線(3)について。このような生産のしくみをなんというか。問屋制
- 問6 下線(4)について。このような生産のしくみをなんというか。マニファクチュア〔工場制手工業〕
- 問7 下線(5)について。こうした国家政策をなんというか。重商主義
- 問8 下線(6)について。こうした貿易をなんというか。三角貿易
- 問9 下線(7)について。こうした行為をなんというか。(第二次)囲い込み〔エンクロージャー〕
- 問10 下線(8)について。このような傾向の思想を一般になんと総称するか。社会主義思想
- 問11 文中にあらわれる★すべてに共通して当てはまる語句を記せ。資本

17 2001年 中央大学 経済

以下の文章を読み、設問に答えなさい。

奴隷の売買は世界の多くの地域において古代から存在する。しかし、《大航海時代》以降の近代において、奴隷貿易の主体となって、その売買と使役を行ったのはもっぱらヨーロッパ人であり、その対象となったのはアフリカ黒人であった。いわゆる新世界が発見されると、征服者たちは、①ごく少数の兵力で瞬く間に先住民を征服し、異教を信じる野蛮人の文化であるという理由で②彼らの諸文明を徹底的に破壊した。その過程で、ヨーロッパ人たちは、先住民を捕獲し、奴隷として使役した。奴隷として③鉱山で酷使され、家族から引き離された先住民たちは、鉱山労働に不慣れであったこともあって絶望のあまり次々と命を落としていった。④ヨーロッパ人による殺戮と鉱山労働などでの酷使とともに、さらにヨーロッパ人が持ち込んだ感染症が免疫を持たなかった先住民にとって大いなる災いとなった。その結果、コロンブスが⑤サントドミンゴ島に到着したときに100万人といわれた同島の先住民の人口は、ヨーロッパ人による殺戮(サリ)・虐待・疾病によって40年後にはわずか200人から300人にまで激減してしまった。

先住民が激減して、自由に酷使できる労働力が不足すると、ヨーロッパ人たちはアフリカに目を付け、そこで黒人を購入して、カリブ海諸島と南北アメリカへ奴隷として搬入し始めた。奴隷貿易に最も熱心に取り組んだのが、いち早く《地理上の発見》に乗りだし、かつ、西アフリカに奴隷集積拠点を確保していた(Aポルトガル)であった。(Bスペイン)も、アフリカに拠点こそ持たなかったが、16世紀後半になると奴隷供給請負契約によって奴隷を大量に確保する道を開いた。16世紀後半から17世紀にかけてのブラジル北東部やカリブ海諸島における⑥奴隷制大農園経済こそ、奴隷貿易の本格的な発展を必要とした。奴隷貿易に手を染めた国は、上記の2国にとどまるのではない。まず、16世紀に

(B)から独立した(Cオランダ)が17世紀になると、ヨーロッパと新大陸との貿易の覇権を握り、奴隷貿易にも盛んに従事した。しかし、この海上覇権もやがて(Dイギリス)、(Eフランス)から深刻な挑戦を受けた。なかでも(D)は、⑦同国による植民地貿易の独占をねらった法律で(C)に打撃を与え、アフリカの最も重要な輸出品であった黒人奴隷と⑧カリブ海諸島の最も重要な輸出品の海上権益を握った。さらに、王立アフリカ会社(1672設立)を軸とした独占事業の試みが行き詰まると、17世紀末からは個人商人の手にゆだねたうえ、1713年⑨ユトレヒト条約で(E)を退けて(B)の奴隷供給請負契約を獲得し、奴隷の販路を自国領植民地以外にも拡大していった。その結果、17世紀から18世紀にかけていくつかの港湾都市が奴隷船の母港として興隆すると同時に、(D)→アフリカ→カリブ海諸島→(D)という、大西洋を囲む⑩三角貿易の核として大いなる富を蓄積した。

⑩奴隷貿易はそれに関係する商人たちに多額の収益をもたらし、ヨーロッパの主要港には、奴隷貿易で財をなしたブルジョワたちがその栄華を誇っていた。例えば、奴隷貿易によって繁栄した(D)のいくつかの都市では「奴隷の血糊でもって接合されていないような煉瓦はただの一枚もない」とまで形容された。

かくて17世紀中頃から18世紀は、奴隷貿易の黄金時代となった。19世紀半ばに奴隷貿易が禁止されるまで、少なく見積もっても1000万人、多めの推計では数千万人にもものぼる黒人青年たちが、ヨーロッパ人によってアフリカから南北アメリカとカリブ

海諸島に搬送され、運良く海の上で死なずにすんでも、目的地では過酷な労働に従事させられたのである。

- (1) ①について、ヨーロッパ人たちはなぜ「ごく少数の兵力で」先住民たちを征服できたのか。最も重要だと思われる理由を一つだけ挙げ、簡潔に記入しなさい。 **火器の使用**
- (2) ②について、ペルーを中心にして栄えた先住民の文明とその首府があった都市名、さらに、それを破壊した征服者の名を、それぞれ記入しなさい。 **インカ クスコ ピサロ**
- (3) ③について、当時発見され、開発された新大陸最大の銀山の名前を記入しなさい。 **ポトシ ラス=カサス↓**
- (4) ④について、先住民虐待に対して、激しく抗議し、その待遇改善を主張したヨーロッパ人神父は誰か。
- (5) ⑤について、現在は別名では何と呼ばれるか。その島名を記入しなさい。 **ハイチ(イスパニョーラ島)**
- (6) ⑥について、これは、何と呼ばれるか。カタカナで記入しなさい。 **プランテーション (アシエンダ)**
- (7) ⑦の法律を何と呼んでいるか。 **航海法**
- (8) ⑧の「カリブ海諸島の最も重要な輸出品」とは何か。 **砂糖**
- (9) ⑨の条約で、(B)国の王位継承を承認された人物は誰か。 **フェリペ5世**
- (10) ⑩の他にも、18世紀末から19世紀にかけてのイギリス・インド・中国を結ぶ三角貿易が有名であるが、この三角貿易のそれぞれの航路における最も代表的な貿易品は何か。 **絹製品 アヘン 茶**
- (11) ⑪について、(D)国において、奴隷貿易で繁栄し、また、産業革命の際には、後背地に一大工業都市を持ったことで有名な港湾都市は何か。 **リバプール**
- (12) (A), (B), (C), (D), (E)の国名を記入しなさい。

18

2018 津田塾大学

17世紀以降、(あ)大西洋ルートで行われた三角貿易により、さらに多くの奴隷が北アメリカ大陸や西インド諸島に流入した。「三角貿易」とはどのようなものであったか、次の語をすべて用いて200字以内で説明しなさい。 武器・綿製品 砂糖・コーヒー プランテーション

17世紀から南北アメリカでプランテーションの開発が進み、その労働力として大量の奴隷が求められたことを機に成立した貿易形態。アフリカから米大陸や西インド諸島へ奴隷が、そこからヨーロッパへ砂糖・コーヒーなどプランテーションの産品が、ヨーロッパからアフリカへ武器・綿製品などの工業製品が運ばれた。18世紀には英商人がこれをほぼ独占、同国における資本蓄積を促したが、アフリカでは甚大な社会的損失を生みだした。

第5講 文字(言語)の歴史 第6講 紙(書写材料)の歴史

【東西交渉史(伝統的東西交渉路と大航海時代)】

《ステップ=ルート(〔1 草原〕の道)》 遊牧民族の活躍 ∴農耕社会起源説

○オアシスでの小規模な農業、遊牧(非生産的経済社会) ○商業取引及び通商路の支配、農耕民からの略奪。

騎馬術の発生 [黒海北岸、ドナウ川北方の草原地帯に始まる。(前3000年半ば頃)

長い年月の間に、轡・鞍・鐙などが発明される。

インド=ヨーロッパ語系、スキタイ族(前6世紀~前4世紀)の台頭。南ロシア草原一帯を支配。

∴動物意匠に特色(ギリシア系金属文化の採用) ステップ=ルートを経て匈奴に影響を与える。

∴イラン民族(ペルシア人)にも同様。

[北方民族の活躍の場]

○柔然(丘豆伐可汗、モンゴリア統一) ∴北魏と対峙。 アヴァール族との関係。

○突厥(テュルク)(土門可汗、独立) ∴ササン朝と協力し、エフタルを討伐。

582年、隋の離間策で東西分裂。第二帝国期、オルコン(オルホン)碑文(突厥文字)創始。

○ウイグル [トルコ系鉄勒部。763年、マニ教導入。イスラーム教(回教)も流行し、文字も作成する。]

↑
キルギス族により滅亡。

//
一部中央アジアに逃れ、〔2 カラハン〕朝を形成。

《シルクロード(絹の道):オアシスの道》

前1世紀頃からギリシア、ローマ人は中国人をセレス（絹を産する人）、中国をセリカ（絹の産地）と呼んだ。
∴独の地理学者〔3 **リヒトホーフェン**〕がこの名を命名。

∴シルクロードの盛衰

- ①前1世紀～後2世紀 [漢帝国中心]
- ②7世紀～8世紀 [唐帝国中心 ∴ササン朝ペルシア・イスラーム帝国]
- ③13世紀 [モンゴル中心 ∴駅伝制(ジャムチ)で最盛期をむかえる。]

<※漢帝国と匈奴の興亡について>

(戦国時代) 長城築城 前3世紀 燕、趙、秦に侵入
(秦) 前214年、始皇帝 蒙恬にオルドスを占領さす。万里の長城完成(戦国時代の城壁を修築し連結。)

冒頓単于の台頭。

(漢) 高祖 和親策をとる [前206年東胡、月氏を打ちモンゴリア統一。[アム川流域へ移動→大月氏]
武帝 [積極的対外策に転換] [前200年、白登の戦いで漢軍敗北する。]
張騫を大月氏へ派遣。〔4 **西域**〕の発見(※シルクロード)
将軍衛青、霍去病の討伐。河西回廊の確立=[武威→張掖→酒泉→敦煌(ここから西を西域という。)]
李広利を大宛(フェルガーナ)へ派遣。(汗血馬の獲得のため)

前59年、西域都護を設置。(鄭吉)

王莽は匈奴討伐失敗。

- 前54年、匈奴東西に分裂。
東匈奴、呼韓邪単于、前漢に投降。(王昭君の悲話は有名。)
- 48年、匈奴〔5 **南北**〕に分裂。

(後漢) 明帝 北匈奴を崩壊。 南匈奴、後漢に投降。 ※北匈奴の一部はキルギス高原を越え、
4世紀にヴォルガ=**フン族**として活躍。[**ゲルマン民族**を圧迫。]

和帝 91年、**西域都護復活(班超)**。[部下の甘英を97年、大秦国へ派遣。]
安息国(パルティア)を経て条支国(シリア)まで到達するもののパルティア人に阻止さる。
∴1～2世紀は南海航路の隆盛。166年、**大秦国王安敦の使者と称する者洛陽に来る**。

<※13世紀の最も活発なシルクロード>

∴駅伝制(ジャムチ)の整備。[元代、オゴタイ=ハン時代に完成。]
内陸ルートと海路をつなぐ大規模な流通経済を実現し、明代の活発な商品生産を促す。

<人物伝来と東西交流>

○**モンテ=コルヴィノ**(イタリア人) [1294年、教皇の命で大都を訪問、30年滞在し、十字寺で大司教として布教。]

○**マルコ=ポーロ(ヴェネツィア商人ニコロの子)**

[1275年、オアシス=ルート(タブリーズ経由)で大都に訪れ、17年間フビライに仕え(?),海路で帰省。]

「**世界の記述(東方見聞録)**=1299年、口述」 ※世界最大の港の1つ **ザイトゥン(泉州)** **キンザイ(杭州)**

○**イブン=バットゥータ**(モロッコ生まれのイスラーム教徒) [1346年、大都を訪問し、海路で往復。]

{メッカ→アラビア半島→小アジア→テラー→スマトラ→泉州→大都→インド→1349年、一旦帰還→グナダ→カハラを経てトンプクトゥ}
30年間、12万kmの記録を1357年、完成。=「**三大陸周遊記**」

<東→西> **宋代の3大発明**がイスラーム経由でヨーロッパに伝来し、ルネサンスの3大発明として改良される。

絹、陶磁器は東方貿易の重要品目(清代は茶) 山水画は**ミニアチュール(細密画)**に影響。

<西→東> イスラーム文化の影響。[天文学、暦学、数学、医学、地理学] イスラーム教(清真教)

郭守敬[授時暦(1280年)] ∴日本への影響=安井算哲(貞亨暦)

チベット文化の影響。=ラマ教[儒教は科擧の廃止で衰退。] **パスパ文字**(一般には流行せず。)

《**マリン=ルート(海の道)**》

∴〔6 **エリュトゥラー**〕海案内記[あるギリシア人の航海日誌。]

<※1～2世紀のルート発見と繁栄。>

○ローマと**南インド(アーンドラ朝)**の交易。[∴アレクサンドリアのヒッパロスが**季節風(モンスーン)**発見。]

ローマ(金貨、銀貨、ガラス、葡萄酒) ↔ インド(象牙、タイ、胡椒)

○インドと中国(後漢)の交易。 [インド文化の東南アジアへの流入・中国(絹、皮革)]

∴100年頃、扶南(〔オケオ遺跡〕) 166年、ローマの使者の到着。

<※15世紀初頭の南海遠征。>

明代、永楽帝期(成祖1402～1424) [朝貢促進のため。]

太監、〔7 **鄭和**〕[馬氏=イスラーム教徒でアラビア語やペルシア語に堪能。]の南海遠征。

[1～3回](1405～1407)ー東南アジア、インド南西部

[4～7回](1413～1433)ーペルシア湾、アラビア、**アフリカ東岸(マリンディ)**

∴8000トンクラスの大型船[60隻の編成隊。(1隻あたり平均450人の乗員)]

※中国の海禁政策。[1371年以降、海禁令(鄭和は例外であることに注意。)がしかれる。1435年、鎖国策に転ず。]

貿易は朝貢形式 [14世紀、前期倭寇(朝鮮半島から中国沿岸にかけて=多数の日本人も参加。対馬の宗氏など)
∴勘合貿易 [16世紀、後期倭寇(中国沿岸。中国人中心であり、私的海外貿易推進運動の意味がある。)]

《**地理上の発見以降の、一方的ヨーロッパ進出**》

要因 ◇東方への関心 [香辛料、需要増大] マルコ=ポーロ「世界の記述(東方見聞録)」
◇オスマン=トルコの貿易ルート支配 ◇科学技術の進歩 (羅針盤) ∴地球球体説 ビ=エル=ダ=イ (仏人)・トスカリ (フィレンツェ人)

《ポルトガル大航海の過程》

エンリケ航海王=[1441年、ブランコ岬・1445年、ヴェルデ岬] ∴金産地への進出であることに注意！

ジョアン2世[1488年、バルトロメウ=ディアスの喜望峰(暴風岬)発見。]

↓

1498年、ヴァスコ=ダ=ガマのカリカット到達。[アラビア人の先導。インド洋貿易で東アフリカ沿岸都市が発展。]

∴当時のインドはヴィジャヤナガル王国時代。

1500年、カブラルのブラジル漂着。(これ以外のラテン=アメリカはほぼスペイン領。)

※東インド貿易 インド洋制海権。[1509年、ディウ沖の海戦でマムルーク朝に勝利し、獲得。]

1510年、ゴア占領。[インド総督、アルブケルケ]→1511年、マラッカ諸島[マラッカ王国滅亡。(初のイスラーム国家)]

→モルッカ諸島到達。→中国[1517年、広東に到着。→1543年、種子島漂着。→1557年、マカオの居住権獲得。]

《スペイン大航海の過程》

1492年、コロンブス(ジェノヴァ人) イサベル王女の援助でパロス港出発。

サン=サルバドル島に到着。[以後3回の探検、西インド諸島～バハマ諸島(キューバ・ハイティ)]

1493年、教皇子午線[アレクサンデル6世(教皇)]

=西側(スペイン) ←→ 東側(ポルトガル)]

1494年、トルデシリャス条約で境界線を改定。[西へ移動]



<コロンブス>

アメリゴ=ヴェスプッチ(フィレンツェ人)が新大陸確認。(1499～1501)

1513年、バルボア(スペイン人)のパナマ地峡横断。[太平洋発見。]

マゼラン(ポルトガル人)の世界周航 ∴カール5世の特許状

1519年、セヴィリア出発。(5隻=270人)

→マゼラン海峡から太平洋へ(太平洋の命名はマゼラン)

→1521年、フィリピン到達。(1571年、マニラ建設。)[マゼラン死亡。]

→1522年、地球球体説を実証。[部下エル=カーノ等18名がスペインに帰還。]



<マゼラン>

○世界の一体化。=ヨーロッパからの一方的支配の開始。[アジア・アフリカ・ラテン=アメリカ]

○商業革命= {商業、貿易が地球的規模に拡大。流通経路の変化。}

[地中海都市→大西洋岸都市の発展。(リスボン、セヴィリア、アントワープ)]

○価格革命= {多量のメキシコ銀流入により、貨幣価格が下落し物価が急騰。=超インフレ} ∴ポトシ銀山

※1545年にペルーのポトシ(現、ボリビア領)、1546-48年にメキシコのサカテカス、グアナフアトで豊かな銀山が発見され、1560年ころからインディオを強制労働させて本格的に採掘された。水銀アマルガム精錬法もこのころ導入され、銀の生産増大に貢献した。その産額は最盛時には年約45万kgに達して(ドイツの10倍余)世界総産額の80%をこえ、中南米が銀の一大産地となった。この大量の銀はスペインの船団によって本国へ運ばれた。

17世紀初めまでにヨーロッパでは物価が2～6倍ほど上昇した(価格革命)が、大量のアメリカ銀の流入もその原因の一つである。

19 2001 中央大学 法

つぎの文章(A・B)は東アジアの文字について述べたものである。よく読んで以下の設問に答えなさい。

A 現在、東アジアではさまざまな文字が使用されている。漢字は、その中でも広く用いられている文字の一つである。漢字は中国で生まれ、中華文明圏の拡大とともに、周辺諸民族にも受容されてきた。日本・朝鮮・ヴェトナムなどでは正式な文字として採用され、現在でも、ヴェトナム社会主義共和国と朝鮮民主主義人民共和国を除く国々や華人社会では、引き続き用いられている。

漢字の最古形態とされているものは甲骨文字で、その名のように亀甲や獣骨に刻まれた形で残っている。刻まれている内容は占いに關するものであるが、殷王朝の公式記録であるとも言える。これらの亀甲・獣骨は河南省(1安陽)市小屯にある殷墟から大量に出土している。この甲骨文字に先行する文字が存在した可能性もある。例えば、陝西省の半坡遺跡からは、文字のような文様が施された(土器)が見つかった。しかし、出土数も多くはなく、甲骨文字との関連も明らかではない。

殷代には、文字が青銅器などの金属器にも施され始めた。この文字は(2金文)と呼ばれる。(2金文)は、殷王朝を征服した周王朝でも用いられ、特に、西周後期から東周の春秋時代にかけて普及した。

金文(金石文)とは金、銀、銅、鉄などの金属に刻した銘文、あるいは石材に刻した銘文(石文)をいう。銘文は金属の場合、金属板、器物、特殊な記念物などに彫刻あるいは鑄出されているものが多く、石材の場合は磨崖、碑石、建造物、器物な

どに彫られている。内容は記録、法令、伝記、文学など、さまざまであるが、いずれも史料として重要な意味を持っており、その重要度は中世、古代と時代がさかのぼり文献史料が少くなるにつれて増してくる。広狭2つの意味があり、広義では世界中いたるところに残る金属や石材に刻された銘文をさすが、狭義では漢字文化圏に遺存するものをさしている。後者の場合、素材は金石に限らず、甲骨、木、陶にわたることも少くない。中国の金石文の代表的なものには殷代以降の金属の銘文、周末以来の石碑、墓誌、造像銘、磨崖碑などがあり、日本や朝鮮にも同様の金石文が多い。

また、周代には(3鉄)製農具などの金属器も普及した。大量に作られた青銅の貨幣や鼎(テイ、カエ)などの大型祭器には多くの(2金文)が残されている。東周になると・各地の諸侯が台頭し、群雄割拠の時代を迎える。(6)戦国時代には「戦国の七雄」と呼ばれる7つの有力な国が浮上して相争うようになっていた。この時期にはそれぞれの勢力圏で独自の文化が生まれ、用いられる漢字の字体も異なっているものが多かったようだ。

やがて、これらの国々の中から西方の(4秦)が頭角を現わし、始皇帝の時代に中国を統一した。始皇帝は中央集権的支配を確立するために、郡県制を施行し、(9)言論や思想を統制した。また貨幣や度量衡、さらに漢字の字体を小篆に統一した。この字体統一は、中国で行なわれた最初の言語政策といえる。この小篆は現在でも印章等に用いられている。

隸書 (→草書) →楷書 (→行書)

つぎの漢代になると、(5隸書)という字体が広く用いられるようになった。(5)は楷書に近づいており、記録などの書写の便を図って改変されてきたものと考えられている。一方、楷書は漢末にはできあがり、魏晋南北朝の頃に普及した。漢字の字体はこの段階で安定し、筆・硯・紙等の(4)書写用具の普及とともに、周辺諸民族にも広がって行くことになる。さらに、「蘭亭序」で有名な東晋の書家(6王羲之)などによって、漢字は書として芸術の域に高められていった。

B 漢字は、朝鮮・日本などの中国の周辺諸民族にも普及し、長らく正統な書記体系として用いられていた。しかし、唐代以降、周辺諸民族では民族主義的な動きが高まり、また中国語とは構造の異なる言語を漢字で表記する不便さもあいまって、自民族の言語を書き表すための文字が作り出されるようになった。これらの文字には、漢字系のもので非漢字系のものである。

まず、日本では9世紀頃までに、漢字を表音文字として使用した万葉仮名から平仮名・片仮名が発生していた。ヴェトナムでは、14世紀頃には(7字喃(チュナム))という文字が用いられていたが、これはヴェトナム語に適合するように既存の漢字を組み合わせて作ったものである。一方、遼では、漢字の形態を模倣したり、ウイグル文字をもとにしたりして(8契丹)文字が、太祖(9耶律阿保機)の時代には創られていた。遼に続く金では、太祖完顔阿骨打が1119年に文字創成を命じ、(8)文字と漢字から(10女真)文字が創られた。また西夏でも、表意文字である西夏文字が漢字の形態を模倣して創られている。以上の文字は漢字系である。

一方、非漢字系の文字も少なくない。モンゴル帝国の開祖チンギス=ハンの時代には、ソグド文字系のウイグル文字を借用し修正したものがモンゴル文字として普及した。その後、(11フビライ)のとき、チベット文字をもとに(12パスパ)文字が創られ、1269年に公布された。この文字は100年間ほど用いられたが、構成が複雑なためにほとんど使われなくなってしまった。一方、モンゴル文字にはその後修正が施され、現在でも中国の内蒙古自治区などで用いられている。また、モンゴル国でも近年キリール文字から本来のモンゴル文字に戻そうとする動きがあった。明代になると(10)族の後裔である満州族が勃興し、1616年に太祖(13ヌルハチ)が後金国を立てた。当時、彼らはモンゴル文字に由来する満州文字を用いていたが、これは(13)が創らせたものである。この文字は清朝の公用文字となったが、満州族の漢民族化が進むとに用いられなくなり、現在ではその言語とともにほとんど使われなくなってしまっている。また、朝鮮では、14世紀に李氏朝鮮が成立すると、第4代の王(14世宗)は、朝鮮語を書き表す独創的な文字である(15ハングル)を創製、1446年に『訓民正音』の名で公布した。

設問1 空欄(1~15)に当てはまるもっとも適切な言葉を解答欄に記入しなさい。 彩陶

設問2 下線部(a)について、半坡遺跡などの遺跡から出土し、この時代を特徴づける土器は何と称されるか。

設問3 下線部(b)について、東周は前半の春秋時代と後半の戦国時代に分かれるが、この春秋と戦国を分かちきごとは何か。

晋が韓・魏・趙に三分されたこと

設問4 下線部(c)について、始皇帝のこの政策に大きく関与した人物は誰か。またこの人物は当時のいずれの思想家グループに属するか。 李斯 法家

設問5 下線部(d)について、文字を記す素材は、周代以前は主として亀甲・獣骨や金石であったが、戦国時代から漢代にかけて広く用いられていたものは、何と呼ばれるか。 木簡 竹簡

つぎの文章(A~C)は、紙の歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。なお、漢字は正確に書くこと。

A 紙が世界の文化にとって重大な役割を果たしたことは、もはや言うまでもないであろう。紙は最初に中国で発明され、イスラーム圏に伝わって改良され、さらにヨーロッパに伝播して大いに発達した。古代の中国では、竹や木を用いて記録を残した。先秦時代にはあらゆる書籍が竹片を綴じた「策」で作られていたため、費用も容積も大変な負担であった。

後漢の(1 和帝)時代の105年、宦官であった(2 蔡倫)が製紙法を改良・完成したとされている。

(2 蔡倫)と同時代に生きていたとされる(a)許慎の編纂した字典には、「紙絮一箔也」という記述がみえるが、これは紙とは「絹糸や真綿のくずを洗い、それをすだれでこしたもの」と解釈でき、当時の製紙技法の一端をうかがうことができる。当時は絹なども使われていたが、より安価な綿によるものが広くいきわたるようになった。(b)のちの歴史書にも、「(略)(2 蔡倫)は考えて、樹皮や麻、麻織物のぼろ、魚網を用いて紙を作った。(中略)皇帝はその能力を高く評価し、皆が(2 蔡倫)の(c)紙を使用した」とされている。

B 中国で改善された製紙法がイスラーム圏に伝わったのは、唐の(3 玄宗)時代である。当時、安西の節度使として(3 玄宗)に仕えていた(4 高仙芝)は、現在のウズベキスタンにあった石国に侵攻した。そこで石国は、イスラーム帝国に支援を要請した。その当時のイスラーム帝国は、アッバース朝が支配していた。その前年にウマイヤ朝を滅ぼしていたアブー＝ムスリムは、周辺諸国と連合して唐の勢いを殺ごうとした。両者は(5 タラス河畔)で衝突し、アッバース朝が(4 高仙芝)の軍を壊滅状態に追い込んだ。イスラーム帝国は戦場で得た捕虜を奴隷としていたが、(4 高仙芝)の兵のなかに紙漉き職人がいたため、彼らを用いて(6 サマルカンド)に製紙所を開設した。これがイスラーム帝国における製紙の起源とされている。

アッバース朝第(7 5)代のカリフであった(d)ハールーン＝アッラシードの統治下ではじめて首都(8 バグダード)に製紙工場が建てられ、それ以降、(e)イスラーム勢力下におかれた地域にもつぎつぎと建設された。それに伴って、それまで使用されていたパピルスや羊皮紙などはすたれていった。

C ヨーロッパ諸国でも、12世紀ごろまでは西アジアと同様にパピルスや羊皮紙が使用されていたが、イスラーム圏で製紙業がさかんになるにつれて、その技術がヨーロッパにも伝わった。それまでは製紙技術の面で劣っていたヨーロッパ諸国ではあったが、15世紀における(f)グーテンベルクの(g)活版印刷の改良は、その後のヨーロッパ、さらには全世界をも大きく変えることとなった。ヨーロッパでは、識字率の向上に加えて印刷技術が発達したことによって、国民が短期間のうちに情報を共有できるようになった。17世紀における新聞(日刊紙)の誕生ともあいまって、たとえばフランスでは上流婦人などが主催する社交場であった(9 サロン)が現れるなど、市民の情報交換の場も発達を遂げていった。

こうした情報の共有によって国民に一定の帰属感が生まれ、国民の間に近代的なナショナリズムが誕生した。こういったナショナリズムによって再編成された世界は、国民国家による戦争の体制でもあった。新聞を中心とするメディアは、各国で戦争の勃発に影響を及ぼすことになる。

設問1 空欄(1~9)に入るもっとも適切な語句を答えなさい。なお、(2・3)には人名が入る。(1・4・7・9)については、以下の語群より1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

(1)

① 文帝 ② 和帝 ③ 武帝 ④ 孝文帝 ⑤ 光武帝

(4)

① 司馬炎 ② 王建 ③ 馬遠 ④ 寇謙之 ⑤ 高仙芝

(7)

① 3 ② 4 ③ 5 ④ 6 ⑤ 7

(9)

① コホン ② コーヒーハウス ③ サロン ④ 居酒屋 ⑤ カフェ

設問2 下線部(a)について。これは中国最古の字典(字書)であるといわれている。その名称を答えなさい。『説文解字』 許慎

設問3 下線部(b)について。この歴史書は南朝宋の范曄が編纂したものであるが、この歴史書は何というか。その名称を答えな

さい。『後漢書』

『後漢書』とは中国、後漢一代のことを記した紀伝体の歴史書。正史の一つ。120巻。うち本紀10巻、列伝80巻は南朝宋の范曄の作。志30巻は晋の司馬彪の作。

設問4 下線部(c)について。製紙法の発達によって、儒教をはじめとするテキストの編纂も進んだ。そのなかで、後に科挙試験の正統なテキストのひとつとなった『五経正義』を編纂した唐代の儒学者は誰か。その名前を答えなさい。孔穎達

設問5 下線部(d)について。16世紀ごろまでにカイロで現在の形にまとめられた、この人物も登場する説話集を何というか。その名称を答えなさい。『千夜一夜物語』 [『アラビアン＝ナイト』]

設問6 下線部(e)について。アッバース朝は勢力を拡大したが、同朝が栄えていた10世紀中ごろのイスラーム世界に存在していた王朝はどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ムラービト朝 ② 後ウマイヤ朝 ③ アイユーブ朝
④ ムワッヒド朝 ⑤ ホラズム朝

設問7 下線部(f)について。この人物と同じルネサンス期に生きていた人物はどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。① ドナテルロ

ドナテルロ（ドナテロ）はイタリアの彫刻家。1404～07年L. ギベルティの助手としてフィレンツェのサン・ジョバンニ洗礼堂門扉制作に参加。12年画家組合に登録。主としてフィレンツェで活躍し、オル・サン・ミケーレ聖堂の大理石像『聖マルコ』や『聖ゲオルギウス』（1415～16、フィレンツェ、バルジェロ国立美術館）、ブロンズ像『ダビデ』（35、同）などを制作。古代彫刻の形式に鋭い写実を加え、初期のルネサンス彫刻の確立者となる。

② ドーミエ

フランスの画家、版画家。幼少の頃ガラス職人の父親とともにパリに移る。1829年頃リトグラフ（石版画）の技術を修得。30年から『カリカチュール』誌上に政治漫画を発表し、ルイ・フィリップ王を攻撃したため32年に投獄される。35年『シャリバリ』紙に舞台を移して、以後40年間にわたり貴族やブルジョアジーの生態を風刺した。また、水彩画や油彩画に庶民の生活、大道曲芸師、ドン・キホーテ、芝居の場面などを描いた。78年には視力を失い、極貧のうちに没した。

③ ヴォルテール

フランスの作家、啓蒙思想家。著作は哲学、詩、戯曲、批評、歴史、小説、書簡などにわたり膨大。1726～28年のイギリス滞在後、『哲学書簡』Lettres philosophiques ou lettres anglaises（1734）でイギリス経験論をフランスに導入、専制批判、教権批判を開始。理神論をとり、無神論には反対したが、狂信や偏見を激しく攻撃し、カラス（→カラス事件）、シルバン、ラ・パール迫害事件に際しては寛容を訴えた。またディドロらの百科全書派の運動を支持し、フランス革命の精神的基盤を準備した。

④ テュルゴー

フランスの経済学者、政治家。ルイ16世統治初期の財務総監。初め神学、のち法律を学び、1753年メートル・ド・ルケート（請願書審理官）職を購入。60年スイスにボルテールを訪れ、またこの頃百科全書派やF.ケネー、P.デュボン・ド・ヌムール、A.スミスなどと親交を結ぶ。

⑤ トマス＝ペイン

イギリス生れの思想家、著述家。1774年フランクリンのすすめでアメリカに渡り、ジャーナリストとして活躍。独立を促したパンフレット『コモン・センス』（1776）を発表して一躍有名になった。その後もアメリカ政府の要職につくかわら、一連のパンフレット『危機』Crisis（76～83）を出して、アメリカ国民の士気を高めた。

設問8 下線部(g)について。これはルネサンスの「三大発明」といわれているが、この「三大発明」のうち、残りの2つは何か。その名称を答えなさい。火薬 [火砲]、羅針盤

病気と医療の歴史

21

2001年 立教大 経済

次の文を読み、下記の設問A～Cに答えよ。

ペストの発源地はヒマラヤの山麓であり、中国の雲南にも古くからペストが存在したと推定されている。

史料から確認されるもっとも古いペスト流行は、1) 6世紀半ばにコンスタンティノーブルを襲ったものである。感染したビザン

ツ帝国皇帝にちなんで「ユスティニアヌスのペスト」と呼ばれる。疫病のために混乱した帝国に、①モンゴル系と推定される遊牧民族が侵入した。ペストは②7世紀前半に地中海東部に舞い戻った。それを知った2代目正統カリフの(イ ワマル)は疫病が収まってから軍隊を進め、③ダマスカスを陥落させたと伝えられている。

歴史上2回目のペスト大流行は、④14世紀前半に中央アジアの草原から始まる。その地に住むモンゴル系遊牧民のあいだで、ペストが流行した。中央アジアのペストは、南宋を滅ぼす布石としてチンギス=ハンの孫の一人(ロ フバイ)が雲南の大理国を滅ぼしたとき、モンゴルの軍隊が雲南から持ち帰ったものであるという説がある。中央アジアのペストは西に 伝播し、黒海を経て地中海に伝わり、ついにはヨーロッパ全域に広がる。ヨーロッパの人口の3割を失わせたといわれるこの大流行は「黒死病」として知られ、文化にも影響を与えた。(ハ ボッカチオ)が著した『デカメロン』は、ペストを背景にする小説である。

3回目の世界的大流行は、19世紀に見られた。18世紀後半、⑤中国の清朝は銅銭の原料を確保するため⑥雲南で鉱山を開発した。雲南にいたる交通網が整備され、大量の労働者が雲南に頻繁に出入りするようになったため、19世紀に雲南の風土病であったペストは広東に伝播し、そこから中国の沿海各地に広がった。1894年にはペスト流行地の香港でペスト菌発見をめぐる先陣争いが展開された。一方はドイツの細菌学者(ニ コッホ)に学んだ北里柴三郎、他方は伝染病の予防接種を成功させたフランスの細菌学者(ホ パスター)の弟子であったイェルサンである。その結果、この年にペスト菌が発見され、治療方法の確立への道筋がついたのである。しかし、病原菌の発見で、ペストの歴史に終止符が打たれたわけではない。⑦日本が中国を侵略するなかで、ペストを兵器として用いようとする研究が、関東軍防疫給水部、通称 731 部隊で進められ、ペスト菌を用いた細菌兵器が中国で使用された。しかし、第二次世界大戦後に形成された⑧冷戦構造が、⑨朝鮮戦争を契機としてアジアで確立するなかで、731 部隊に関与した医学者の戦争責任が日本で問われることはなかった。

A. 文中の空所(イ)～(ホ)それぞれにあてはまる適当な人名をしるせ。

B. ペストの流行は、ユーラシア全域の情勢と密接に関わる。文中の下線部 _____ 1)～3)それぞれの時代のアジアに存在した政権に関する次の表の空所を、下記の1・2の指示に従って埋めよ。

| | 中央アジア | 東アジア |
|-----------|--------------------|------------------|
| 1) 6世紀半ば | (あ <u>a エフタル</u>) | (う <u>e 梁朝</u>) |
| 2) 7世紀前半 | (い <u>e 西突厥</u>) | (え <u>c 唐朝</u>) |
| 3) 14世紀前半 | | (お <u>a 元朝</u>) |

1. 表中の空所(あ)・(い)それぞれにあてはまる適当なものを、次のa～eから1つずつ選び、その符号をマークせよ。

a. エフタル b. ガズニ朝 c. チャガタイ=ハン国 d. ティムール帝国 e. 西突厥

2. 表中の空所(う)～(お)それぞれにあてはまる適当なものを、次のa～eから1つずつ選び、その符号をマークせよ。

a. 元朝 b. 宋朝 c. 唐朝 d. 明朝 e. 梁朝

C. 文中の下線部 _____ ①～⑦にそれぞれ対応する次の問①～⑦に答えよ。

① この民族の名をしるせ。 アヴァール人

② この都市を首都とした王朝の名を、次のa～eから1つ選び、その符号をマークせよ。

a. アイユブ朝 b. アッバース朝 c. ウマイヤ朝 d. ファーティマ朝 e. マムルーク朝

③ 疫病のため王朝が戸籍によって把握している人民の多くが死んだが、清朝の財政はそれ以前の中国の王朝に比べ影響を受ける程度が少なかった。その理由を税制との関係から2行でしるせ。

18世紀以降、税制が地丁銀に移行し、疫病などによる人口減少に大きな影響を受ける丁銀が地銀に組み込まれて、事実上廃止されていたため。

④ 清朝が雲南で推し進めた統治方法の名を次のa～dから1つ選び、その符号をマークせよ。

a. 改土帰流 b. 羈縻 c. 郡県 d. 冊封

改土帰流とは土司どし・土官どかん(=元、明、清の官職)を改めて流官(中央政府任命の地方官)にする意味 雍正帝期、多数の土司・土官が廃され、中央から中国人地方官が派遣され、内地同様の州県制統治が行われることになった

⑤ 日本の中国侵略に関する下記の甲・乙それぞれの事項a～dについて、もっとも古いものより年代順に記せ。

(甲) a. 関東軍が設立される。 2 1919 中国東北地方の日本陸軍部隊

b. 広東から国民革命軍が北伐に出る。 3 1922

c. 河北省の塘沽ワグで停戦協定が結ばれる。4 1933 蔣介石 安内攘外

d. 東清鉄道の一部が南満州鉄道となる。1 1905

(乙) a. 中国共産党の軍隊が長征に出る。2 b. 南京を占領するとき日本軍が虐殺を行う。3 1937年

c. 日中十五年戦争が始まる。1 1931年満州事変～45年

d. 日本とアメリカとの戦争が始まる。4 1941年

⑥ 1946年にチャーチルが演説のなかで、ソ連がバルト海からアドリア海にかけて勢力圏を作ろうとしていると批判したときに用いた言葉で、のちにヨーロッパの冷戦を象徴することとなった言葉をしるせ。鉄のカーテン

⑦ i. この戦争で当初、国連軍最高司令官をつとめたのは誰か。その名をしるせ。マッカーサー

ii. この戦争が勃発したときのアメリカ大統領の名をしるせ。トルーマン

iii. 朝鮮戦争は1951年に休戦会談が始まる。北緯38度線にあり第二次休戦会談以降、その休戦会談が行われる場所の名をしるせ。

板門店

法律平和思想の歴史

【国際平和とユートピア思想】

<国際平和の思想（～国際連合）>

<古代～中世> ○ギリシア {隣保同盟=アンフィクティオニア} ※オリンピック競技
○ローマの自然法思想 {←ストア派(ゼノン)}
○中世ヨーロッパ {キリスト教的平和=「神の平和」「神の休戦」}

<近代～現代> ○ [1 グロティウス] (1583～1645、オランダ) 「自然法の父」「国際法の父」

ドイツ三十年戦争の惨禍→国際平和の確立の必要性を痛感『戦争と平和の法』(1625)『海洋自由論』(1609)

○サン=ピエール (1658～1743、フランス) イエズス会の僧侶ユトレヒト会議に随員として出席
『永久平和論』(『永久平和草案』) {平和維持のための国際機関の設立を主張・カント、ルソーに影響を与えた。}

○カント (1724～1804、ドイツ) ドイツ観念論 哲学の祖
『永久平和のために(永久平和論)』(1795) =のちの国際連盟の思想を提示

○ [2 アレクサンドル1世] (在位1801～25) 神聖同盟の提唱。{ナポレオン戦争後の体制}
神聖同盟 (1815成立)
{露・墺・普の3君主→全ヨーロッパの君主参加 (ローマ教皇・オスマン帝国・イギリスを除く)}
ウィーン反動体制護持の精神的機関として利用された。{四国同盟 (1815)、五国同盟 (1818)}

○ニコライ2世 (在位1894～1917)
{万国平和会議を提唱=ハーグ万国平和会議 (1899、1907) →国際仲裁裁判所 (1901)}

○ [3 レーニン] (在任1913～21) の14カ条 (1918、1発表)
※「平和に関する布告」(1917、11月) {レーニン=無併合・無賠償・民族自決}
国際連盟規約 (1919、ヴェルサイユ条約) 国際連盟発足 (1920、1)

○国際連合の成立

大西洋意章 (1941、チャーチル、F・ルーズヴェルト)
ダンバートン=オクス会議 (1944) {ワシントン郊外、米・英・ソ・中}・国際連合憲章草案作成
サンフランシスコ会議 (1945) {米・英・ソ・仏・中招請・6月、国際連合憲章採択}

<その他の反戦平和思想家>

○ [4 アリストファネス] (B. C. 450～385) {アテネの喜劇作家、平和論者}
煽動政治家を攻撃 (ペロポネソス戦争中) 「女の平和」(B. C. 411) …ペロポネソス戦争中の反戦劇

○アンリ=デュナン (1820～1910、スイス) {第2次イタリア統一戦争の惨状を目撃}
国際赤十字創立 (1864、本部ジュネーヴ) {最初のノーベル平和賞受賞 (1901)}

○クーベルタン (フランス) {近代オリンピックの開催 (1896) アテネ第一回大会}

○第2インターナショナル (1889～1914) の反戦平和運動

アムステルダム大会 (1904) {プレハノフ、片山潜・日露戦争反対を決議 (戦争中)}
シュトゥットガルト大会 (1907) …帝国主義戦争反対を決議
バーゼル臨時大会 (1912) {第1次バルカン戦争の勃発・シュトゥットガルト決議、確認}

第1次世界大戦勃発後、各国社会党は政府支持

- 左派 {ボリシェヴィキ、ドイツ社会民主党左派 (ローザ=ルクセンブルク・カール=リープクネヒト)}
 フランス (統一) 社会党 ジャン=ジョレス暗殺 (1914)
 ○ ロマン=ロラン (1866~1944、フランス) 『ジャン・クリストフ』 『魅せられた魂』 No. 23
 {ノーベル賞受賞 (1916)・第1次世界大戦中は、スイスで反戦平和運動を展開}
- レマルク (1898~1970、ドイツ) 『西部戦線異状なし』 (1929)
 {第二次世界大戦中、アメリカへ亡命} 『凱旋門』 (1946)

＜ユートピア思想＞

- [5 プラトン] (前427~347) {アテネの哲学者} 『ポリテΙΑ (国家論)』
 {哲人政治=統治者・戦士・庶民の3階級=統治者・戦士の2階級は私有財産禁止}
 貴族主義的傾向←アテネ衆愚政への失望・反感。
- トマス・モア (1478~1535) {イギリスの政治家、人文主義者} cf エラスムス
 {ヘンリ8世に仕え、大法官に就任 (1529)・宗教改革に反対し、投獄・処刑}
- 『[6 ユートピア]』 (1516)
 {第1部 (イギリスの現状批判) = 第1次エンクロージャー (15世紀末~17世紀半) 「羊が人を喰う」
 {第2部 (ユートピア島の見聞) = 農業中心の原始共和政を理想}
- カンパネラ (1568-1639) {イタリアの哲学者、ドミニコ会修道士}
 {南伊の対スペイン独立運動参加→入獄 (ナポリ、1600以降27年間) ③ 『太陽の国 (太陽の都)』 (1623)}
- [7 ロバート=オーウェン] (1771~1858) {イギリスの産業資本家、空想的社会主義者}
 「人間の性格は環境の産物」 ニューラナークの紡績工場経営 (1800~25)
 アメリカで理想の共産社会ニューハーモニーを建設 (1825~29) →失敗
 工場法の制定、協同組合・労働組合の育成に尽力 {全国労働組合大連合 (1834)}
- サン・シモン (1760~1825) {フランスの空想的社会主義者、貴族出身}
 アメリカ独立戦争参加・フランス革命後、「産業者」(労資未分化)の社会を構想
- フーリエ (1772~1837) {フランスの空想的社会主義者}

22 2001年 青山学院大学 経営

次の文章を読んで、空欄に入れるのもっともふさわしい語句を、それぞれの指定の語群中から選べ。

空欄(2)(3)(11)(12)(13)は、語群Aから選べ。

空欄(4)(5)(6)(7)は、語群Bから選べ。

空欄(1)(8)(9)(10)(14)(15)は、語群Cから選べ。

絶対王政の時代に、国王による支配が社会生活に与える影響が意識されるようになった。国王の権力は神から授けられたとする(1 ニボシユ)などによる王権神授説は、(2 チ絶対主義)を正当化する理論であった。こうした王権神授説を批判する武器となったのが(3 イ自然法)であった。17世紀の国際商業の中心地オランダでは、(3)を国際関係に適用して合理的な国際法を基礎づけたグロティウスがあらわれた。グロティウスはオランダの海上進出を擁護し、

(4 ロ三十年戦争)の惨状を見て『戦争と平和の法』を著した。イギリスでは、(3)にもとづく社会契約説が発達した。ホッブズは「万人の万人による闘争」を避けるために各人が契約によって国家を形成すると説いて国家主権の絶対性を主張した。この理論は(5 ト王政復古)の専制政治を弁護する結果になった。ロックは、政府とは社会契約によってつくるものであると考え、政府がこの目的にそぐわない場合はそれに抵抗できると説いて、(6 チ名誉革命)を擁護し、(7 リアリカ合衆国)の独立にも影響を与えた。17世紀に基礎のできた近代思想は、18世紀の後半にはイギリスやフランスで啓蒙思想として開花した。フランスにおいて、その集大成はディドロらが編纂した(8 カ百科全書)である。当時の時代精神をもっとも代表するのは、ヴォルテールであり、彼は(9 ヨ哲学書簡)などを書いて、王政の弊害などを攻撃した。社会理論では(10 ハモンテスキュー)が著書の『法の精神』で政治体制の科学的分析を通じて王権の制限を説いた。経済学ではケネーが富の源泉を商業であると No. 24

する(11 ル重商主義)を批判して、富の源泉を農業生産であるとする(12 フ重農主義)の立場をとった。イギリスではアダム=スミスが(12)を発展させて富の源泉を生産労働一般に求め、(13 リ自由主義)経済学を確立した。また啓蒙思想は、ヨーロッパで実用面と結びつく多くの自然科学の進歩をもたらした。植物学の(14 ハリンネ)、化学のラヴォワジエ、天文学のラプラス、医学の(15 ヌジェンナ)がよく知られている。

| | | | | |
|-----|--------|--------|--------|--------|
| 語群A | イ 自然法 | ロ 演繹法 | ハ 帰納法 | ニ 首長法 |
| ホ | 汎神論 | ヘ 経験論 | ト 福音主義 | チ 絶対主義 |
| リ | 啓蒙専制主義 | | ヌ 重金主義 | ル 重商主義 |
| ヲ | 重農主義 | ワ 自由主義 | カ 保護主義 | ヨ 帝国主義 |

| | | | |
|-----|---------|----------|------------|
| 語群B | イ 百年戦争 | ロ 三十年戦争 | ハ 七年戦争 |
| ニ | 北方戦争 | ホ ユグノー戦争 | ヘ ピューリタン革命 |
| ト | 王政復古 | チ 名誉革命 | リ 科学革命 |
| ヌ | 国民議会 | ル 立法議会 | ヲ オランダ |
| ワ | アメリカ合衆国 | カ ポルトガル | ヨ ベルギー |

語群C

| | | | | | |
|---|--------|---|---------|---|----------|
| イ | ルソー | ロ | ダランベール | ハ | モンテスキュー |
| ニ | ボッシュエ | ホ | ヒューム | ヘ | リンネ |
| ト | ダーウィン | チ | ボイル | リ | ニュートン |
| ヌ | ジェンナー | ル | リヴァイアサン | ヲ | 人間不平等起源論 |
| ワ | 市民政府二論 | カ | 百科全書 | ヨ | 哲学書簡 |

23 2001年 上智大学 神,文(心理),経済(経営)

戦争と平和思想の歴史に関する次の問(1～25)に、もっともふさわしい答を選択肢(a～e)から選びなさい。

問1 中国の春秋戦国時代に、孔子の説く愛を差別愛として批判し、実利の立場から戦争を無益無用とする非戦論を述べた一派がある。この派の始祖はだれか。

- a 孟子 b 老子 c 韓非子 d 孫子 e 墨子

問2 問1と同じ頃、ギリシアでは喜劇の形で反戦思想を表現した作品が誕生した。それはなにか。

- a 『女の平和』 b 『イリアス』 c 『労働と日々』 d 『オイディプス』 e 『神の国』

問3 問2の作品が書かれた頃、地中海世界ではどのような戦いが行われていたか。

- a ポエニ戦争 b ペロポネソス戦争
c レペントの海戦 d アクティウムの海戦 e カイロネイアの戦い

問4 古代ローマは、地中海から遠くブリタニアまで覇権を確立し、「パックス＝ロマーナ(ローマの平和)」と称される長期にわたる支配秩序を維持した。「ローマ人は無人の地をつくり、これを平和と呼ぶ」というブリタニアの支配者の言葉を紹介するなど、ローマの現状に批判的であった作家はだれか。

- a ポリビオス b プルタルコス c タキトゥス d リヴィウス e キケロ

問5 キリスト教が中世ヨーロッパの支配的宗教になると、戦争が神の名によって正当化される現象が生じた。イスラーム勢力によって支配されていた「聖地エルサレムの回復」をスローガンに始まった十字軍遠征も、この種の「聖戦」といえるが、十字軍遠征が提唱された会議が行われた場所はどこか。

- a ヴァチカン b トリエント c ラテラン d クレルモン e コンスタンツ

問6 数回行われた十字軍遠征に関係のないものは、次のどれか。

- a エルサレム王国 b セルジューク朝 c ランカスター朝
d ラテン帝国 e ビザンツ帝国

問7 ヨーロッパ中世の教会は戦闘を阻止する役割も果たした。特定期間における領主貴族同士の戦闘禁止を制度化したのは教会である。この制度を何というか。

- a 不輸不入権 b 非攻墨家 c テマ制 d 神の平和 e 不殺生 ジャイナ教

問8 中世後期になると、農民がしだいに経済力をつけて社会的地位を向上させた。彼らは、困窮した領主が農民への搾取や束縛を強めると、農民一揆を起こすようになった。このように農民が力をつけるようになった要因として、誤っているものを選びなさい。

- a 都市や貨幣経済の発達により、自給自足を本質とする荘園制がくずれ始めた。
b 農民の負担が、賦役から生産物地代へ、そして貨幣地代へと変化した。
c ペスト大流行で人口が激減したので、領主は農民の待遇改善を図った。
d 農民は入会地を分割して自己資産を増大した。 私有地の確保

e 領主は農民から解放金などを出させ、農奴の身分から解放するようになった。

問9 問8の時代の農民一揆の時に、「アダムが耕し、イヴが紡いだとき、だれが貴族であったか」といって農民たちを扇動したのはだれか。

ワットタイラーの乱

a ミュンツァー b ジャックリー c フロンド d フス e ジョン=ボール

問10 中世末期から騎士が没落していったが、その一因は、彼らが軍事的な変化についていけなくなったことにあった。当時の軍事的変化としてあてはまるものをすべて選びなさい。

- a 火薬が兵器に使われるようになった。
b 主要な戦闘の場が、ヨーロッパから植民地または公海上へと変化した。
c 傭兵制が普及した。
d 騎士の一騎打ちから重装歩兵の戦いへと戦術が変化した。
e 農民に対して徴兵義務制がしかれた。 18世紀末フランス革命期

問11 ルネサンス・宗教改革の時代になると新しい思想や価値観が出現し、対立や紛争も増加した。 ←→ルター

このような時代に、世の権力者の腐敗を痛烈に批判しつつも、過激を嫌って宗教改革には中立の立場をとり、『平和の訴え』をあらわした人文主義者はだれか。

a モンテーニュ b トマス=モア c フランシス=ベーコン d ロイヒリン e エラスムス

問12 問11の人物と密接な交渉をもち、架空の理想社会を描くことでユニークな平和論をあらわした No. 26

人文主義者(トマス)がいる。彼は、君主の行いに反対して処刑されたが、その君主はだれか。

a フェリペ2世 b カール5世 c ヘンリ8世 首長令
d フランソワ1世 e シャルル9世

問13 16~18世紀になると、西ヨーロッパ諸国の王権は強化され、絶対主義の時代になる。絶対君主がとった統治手段や政策とはいえないものはどれか。

a 重商主義 b 常備軍 c 善隣外交 d 植民地獲得 e 官僚制

問14 絶対主義時代は、新旧両派や絶対主義諸国家間の抗争による「戦争の時代」であった。17世紀前半のヨーロッパにおこった三十年戦争は、ドイツの宗教的内戦として始まり、国際戦争へと発展した。この戦争でカトリック側にたった人物をすべて選びなさい。

a フェルディナント2世 b ヴァレンシュタイン
c リシュリユ d グスタフ=アドルフ e クリスティアン4世

問15 三十年戦争の惨禍を見たグロティウスは、戦争を阻止するために、勢力均衡と国際法による平和の保持を説いた。このことを記した彼の書物はどれか。

a 『戦争と平和の法』 b 『永久平和論』カント c 『永久平和草案』サンピエール
d 『ヨーロッパ平和論』 e 『法の精神』モンテスキュー

問16 戦争に明け暮れた絶対主義時代には、具体的提言を含む平和論が続出した。たとえばアンリ4世は、仲裁裁定と国際常備軍の設置を含む国際平和機構の設立をめざす大計画を構想した。アンリ4世の説明として正しいものはどれか。

a ヴァロア朝の最後の王である。 b 彼個人は新教徒のままであったが、宗教的寛容政策を実施した。
c ユグノー戦争を終結させた。 d サン=バルテルミの虐殺の首謀者である。
e 財務総監コルベールを起用して財政をたてなおした。

問17 ウィリアム=ペンも17世紀末に平和論を著した。彼は、宗教的理由により再三ヨーロッパで投獄されたので、アメリカで信仰の自由を求める人々の植民地ペンシルヴァニアを建設した。絶対平和主義の立場にたつ彼の宗派はなにか。

フィラデルフィア 大陸会議

a カトリック b ゴイセン c ユグノー d プレスビテリアン e クウェーカー

問18 イエズス会士サン=ピエールは、ユトレヒト講和会議に出席し、全君主連合による平和論を唱え、国際連盟の先駆といえる国際平和機構の設立を主張した。この会議で終結した戦争はなにか。

a スペイン継承戦争 b 南ネーデルラント継承戦争 c 七年戦争 d ファルツ継承戦争 e オーストリア継承戦争

- 問 19 18 世紀末には、サン＝ピエールの説に影響をうけつつ、専制君主のもとでの平和体制を批判して、より市民的な立場から平和論を説いた有名な書物が、哲学者の手によって書かれた。この哲学者はだれか。
- a ロック b ホッブス c スピノザ d **カント** e ボーダン
- 問 20 平和とはたんに戦争のない状態にとどまらず、人間の精神が圧制・暴力から解放され自由であるような状態でなくてはならない、という認識は 18 世紀に深まっていたが、19 世紀に入り社会主義が誕生すると、社会主義者の多くは、抑圧された労働者階級が社会変革のために起こす革命は「正義の戦い」と認識するようになった。
- 19 世紀の社会主義者で後世に大きな影響を与えたマルクスの説明として誤っているものを選びなさい。
- a ドイツに生まれたが、後年はイギリスに暮らした。
b ドイツの古典哲学、イギリスの経済学、フランスの社会主義を総合して、自らの社会主義理論を構築した。
c **1848 年に『共産党宣言』を単独で発表した。**
d 第 1 インターナショナルの理論的指導者となった。 e バクーニンら無政府主義者とするどく対立した。
- 問 21 帝国主義時代になると、植民地獲得や勢力圏拡大のための抗争が諸国間で過熱した。帝国主義戦争を否定して繰り返し反戦決議をしたものの、第一次世界大戦勃発時に加盟団体の態度が割れ、大戦を阻止できなかった国際組織はどれか。
- a 国際仲裁裁判所 b **第 2 インターナショナル**
c 万国平和会議 d 国際赤十字社
e 世界産業労働者同盟
- 問 22 第一次世界大戦は大方の予想を裏切って過酷な長期戦になった。参戦の意志がゆれていたイタリアが加わった側の国をすべて選びなさい。1915 年
- a ドイツ b **アメリカ** c **ロシア**
d **日本** e ブルガリア
- 問 23 第一次世界大戦後、史上初の国際的平和機構が設立された。この組織の説明として正しいものを選びなさい。
- a 組織の名称は国際連合という。
b 侵略者を制裁するための軍事力を持っていた。
c 理事会での当初の常任理事国は、英・米・仏・日の 4 カ国であった。
d 社会主義国のソ連は最後まで加入できなかった。 1934 年加盟 フィンランド戦争で除名
e **この組織の設立はヴェルサイユ条約に明記された。**
- 問 24 第一次世界大戦の惨禍を繰り返さないために、1920 年代にはさまざまな国際条約が結ばれた。「国際紛争の解決は武力によらない」という内容の 1928 年に調印された条約を呼びかけた人物はだれか。
- a ウィルソン b シュトレーゼマン c マクドナルド
d **ブリアン** ケロッグ e クレマンソー
- 問 25 平和を求める心情が戦争肯定にすり替えられがちな「平和のための戦争」論や「正戦」論を克服するには、絶対非戦の平和主義や、良心的兵役拒否、また非暴力的抵抗主義などの行動をとるしかない。この立場にたったとはいえない人物はだれか。「代表なくして課税なし」
- a **パトリック＝ヘンリ** b トルストイ c **ガンディー**
d ロマン＝ロラン e キング牧師

テキスト以外の頻出テーマ

【世界の貨幣史】

<オリエントの貨幣>

- エレクトロン貨 [1 **リディア**] 王国 (前8世紀~546) {世界最古の鑄造貨幣 (前7世紀) (金銀合金貨幣)}
- ダレイオス金貨 **ダレイオス1世**鑄造. {王の肖像を彫む}

<ギリシア・ローマの貨幣>

- ドラクマ銀貨 **アテネ**鑄造 (前6世紀) ポリス間の交易拡大 (前7世紀~6世紀) →貨幣経済の進展。
- ローマの貨幣 ①**デナリウス**銀貨 (前3世紀) ②**アウレウス**金貨 (前1世紀、カエサル時代)

<ヨーロッパ中世の貨幣>

- ソリドゥス金貨 (東ローマ) {**ユスティニアヌス1世**鑄造 (6世紀) 西欧諸国、ロシア、北アフリカで流通}
- (新) **デナリウス**銀貨 {**ピピン3世**、**カール大帝**鑄造 中世ヨーロッパ諸国で流通}
- フローリン**金貨 [2 **フィレンツェ**] で鑄造 (13世紀) ヨーロッパ諸国で流通

<ヨーロッパ近代の貨幣>

- ターレル**銀貨 地理上の発見 {材料は初め南ドイツの銀鉱からのち、新大陸の銀鉱から **ポトシ**銀山 {**クラウン**、**ルーブル**などの名で各地で鑄造 絶対君主の造幣権独占の進行}
- 紙幣の発行 {世界最初の銀行券 (1694、**イングランド**銀行創設)}
アッシニア紙幣 (1789、**フランス**革命政府発行) **グリーンバック** (南北戦争中、連邦政府発行)

<中国の貨幣>

- 殷**・西周時代の貨幣 {**殷**=**子安貝** 西周=貝貨、布帛}
- 青銅**貨幣 (春秋戦国時代) {**刀銭** (齊など) **布銭** (晋、韓・魏・趙など) **環銭** (秦など) **螭鼻銭** (楚)}

- 銅銭 {**半両銭** {秦始皇帝、貨幣の統一・円形方孔・後世の貨幣の原型}
五銖銭 {前漢武帝制定・財政政策担当、桑弘羊}
開元通宝 {唐高祖制定・広くアジア諸国で流通}}

- 紙幣 [3 **交子**]、**会子**←唐の**飛銭** (送銭手形) {**交子**=北宋、四川地方に始まる・**会子**=南宋}
交鈔 {金、元**フビライ**=ハン、**交鈔**専用策を採用・明=宝鈔}

- 銀の流通 {**明初** {**宝鈔**、銅銭の二本建て・金銀の流通禁止→**宝鈔**の価値下落、銀使用の普及}
明中期 {ヨーロッパ諸国との交易=ポルトガル人の居住許可 (1557)・海禁令解除 (1567)
→スペイン人との交易 {**メキシコ銀** (墨銀)、日本銀の流入=銀経済の普及 (秤量貨幣)}

※一条鞭法の普及 (16世紀末) {両税法廃止=地税と丁税と銀で納入・張居正の新政 (1573~82)}

20 2001年 早稲田大 商

次の文章を読み、設問A~Lに答えよ。解答は一つだけ答えよ。

中国の歴史は、王朝興亡の単なる繰り返しのように見える。しかし、B時代の推移にともない社会構造が大きく変化したことは、20世紀後半の中国史研究が明らかにした成果の一つである。さらに近年の膨大な新出資料は、皇帝を頂点とする王朝体制下の中国社会が、同じ時代にあっても決して均質一様ではなく、C異質多様な地域や階層、集団からなる複合社会であったことを示してい

る。こうした資料の出現は、中国史における国家と社会の関係の再考を促す。

一例として中国貨幣経済史をとりあげてみよう。¹始皇帝が統一貨幣として鑄造した銅銭である **D** は、以後、王朝発行の基準通貨としての金属貨幣のモデルとなり、漢初には²戦国期の各種青銅貨幣を一掃し、全国に普及した。やがて度重なる外征などによって³財政危機におちいった武帝は、貨幣制度を整え中央政府が独占して発行する高品質の⁴五銖銭のみを認め、その鑄造量は前漢末までに 280 億に達した。中国史上、銅銭鑄造の第一次のピークである。これは貨幣経済の発達した古代帝国、貨幣経済が衰退し自然経済に退行する中世という⁵ヨーロッパ史に類比 No. 3 6

した中国史像と対応する。だが一方、当時の地域社会では、麻布や絹などの実物貨幣が使われ、人々の政府への負担も銭納は⁶算賦のみで田租は物納、労役・兵役は身体奉仕であった。銅銭の普及は、貨幣経済の発展というより算賦の銭納強制による結果であり、また次の時代の自然経済論も、根拠となる⁷地方豪族の大土地経営が完全な自給自足経済ではなく、商業活動にも深くかかわっていたことが明らかとなるなど、単純に先述の中国古代史像を描けなくなっている。

銅銭鑄造量の最大のピークである 11 世紀には、⁸経済先進地域である江南と、大量の軍隊が駐屯する北の国境地帯や官僚などの大消費人口をかかえる⁹首都開封を結ぶ全国的な物流構造が形成され、中国史は再び貨幣経済が活発となる近世社会に入ったと理解されてきた。しかしこれも実態は、政府による軍糧の買い上げと輸送が大部分を占め、貨幣経済の発達とは、民間の市場経済の進展というより政府の財政運営の結果であるとの意見が出されている。銅銭にしても四川など鉄銭しか使用できない地域があったり、¹⁰南宋の交子や会子は使用地域が限定され、政治的統一を実現した宋朝は経済圏の統一に失敗している。さらに時代が降った 16, 17 世紀、¹¹中国は世界経済とつながり当時の全世界の銀の三分の一が流入したとされるが、ヨーロッパのような¹²価格革命は遂に起こらなかった。その理由に全国市場の未形成をあげる研究者もいる。前近代中国を統治する専制王朝は、必ずしも貨幣経済による統一された全国市場の存在を前提としていなかった。

問 A 下線部 1～4 に誤りがあれば、その番号を、なければ 5 をマークせよ。 5

問 B 下線部 B に関連する説明として正しい文はどれか。

1. 天下を統一した秦がわずか 15 年で滅びた原因は、戦国時代以来の急激な宗族制度の崩壊を前に、民衆を掌握するための諸政策が現実に追いつかなかったからである。
2. 唐王朝の創立者は、南北朝時代に台頭した地方の豪族勢力を代表する立場から、文化に優る北朝系と武力に優る南朝系の利害調整に務めなければならなかった。
3. 唐末から五代をへて宋にいたるまでの間に、従来の貴族はまったく姿を消し、代わって地域社会に威を振るった軍人も力をなくし、新興地主層が社会の主導勢力となった。
4. 明代後期、とくに人口が密集した長江下流域には大都市が集中し、そこを拠点とする大商人や不在地主は、科挙を時代遅れとして自らの財力によって政界に進出した。
5. 19 世紀後半、社会的勢力を増した都市の商工業者たちは、アヘン戦争の敗北に危機感を募らせ、滅満興漢を唱えながら洋務運動を展開して国家の富強を目指した。

問 C 下線部 C の事例として不適当な説明はどれか。

1. 漢字は、表意文字としての性質により、このような複合社会を統合する役割を果たした。
2. 儒教と道教の併存は、それぞれが相互補完することで中国という一つの世界を構成した。
3. 冊封体制は、複合社会の政治的統合原理を周辺諸地域に拡大することで形成された国際秩序である。
4. 満州族の建てた清朝が自他ともに中国王朝と認識する理由は、中国の伝統文化を尊重し漢化に務めたことによる。
5. 複合社会を統合する原理でもあった中華思想は、ヨーロッパ列強の主張する主権国家間の国際公法秩序と衝突した。

問 D **D** に入る語句を選びなさい。

1. 方形円孔の半両銭
2. **円形方孔の半両銭**
3. 方形円孔の 4 銖半両銭
4. 円形方孔の 4 銖半両銭
5. 無孔の半両銭

問 E 下線部 E について該当しない青銅貨幣はどれか。

1. 蟻鼻銭
2. 環銭
3. 刀貨
4. 布貨
5. **飛銭**

問 F 下線部 F の説明として正しい文はどれか。

1. この財政難に対処し武帝を助けた政治家は、訓詁学者として著名な桑弘羊であった。

2. 財政増収のために民衆の生活必需品ともいうべき塩・酒・鉄・茶を専売品とした。
3. 特産物を税として徴収，物資の流通と物価の平均を目的とする平準法を実施した。 金品で刑罰を
4. 政府が物資を徴収・保管，物価高騰時に放出し価格の安定を図る均輸法を実施した。 免れること
5. 財源確保ためには重税を課すのみならず，売位・売官・贖罪(シヨクガ^イ)などもおこなった。 →贖罪

問G 類比される中国史上とヨーロッパ史上の現象の組み合わせとして，とくに両者の相違が強調されるものはどれか。

1. 封建制度：周の封建と西洋中世の封建
2. 古代帝国：漢王朝とローマ帝国
3. 民族大移動：五胡とゲルマン民族
4. 荘園：宋代の地主・佃戸関係と純粹荘園の領主・農奴関係
5. 大帝：清の康熙帝とブルボン朝のルイ 14 世

問H 下線部Hの説明として正しいものはどれか。

1. 成年男子に課された人頭税
2. 一定の年齢層の男女に課された人頭税
3. すべての男子に課された人頭税
4. 商品を売買するときに課された商税
5. 商人が移動するときに課された通過税

問I 下線部Iの説明として誤っているものはどれか。

1. 重税や労役負担に苦しむ農民が，豪族に庇護を求めて土地を献じ小作人となること，経営規模を拡大した。
2. 晋は，地方で自立化する豪族の大土地所有を制限するために，地位に応じて所有を制限する占田法を発布した。
3. 魏晋南北朝時代の動乱は，人々の移住を促し，過疎地や未開地の開発が進むなかで豪族の力が強くなった。
4. 地域の有力者となった豪族は，九品中正制のもとで中央政府に参入し，上級官職を独占するにいたった。
5. 政界で力をふるった有力豪族は，自分の荘園に対し免税と地方官の立ち入りを拒否する特権を手に入れた。

問J 下線部Jを示す現象として不適切な語句はどれか。

1. 長江下流デルタ地帯の開発
2. 圃田・埤田の造成
3. 湖広熟すれば天下足る
4. 占城稻の普及
5. 江南官僚の活躍

問K 下線部Kの説明として正しいものはどれか。

1. 世界最初の管理通貨として政府が信用保証したので，国際貿易にも使用された。
2. 周辺地域や後代の王朝にも継承され，遼や西夏の宝砂，金や元の交鈔発行を促した。
3. 紙幣出現の背景には，唐代以来の遠隔地送銭手形制度の発達がある。
4. 交子は民間発行，会子は政府発行と異なるが，どちらも紙幣として通用した。

交子=宋朝が四川の通貨として発行した紙幣

5. 発行と同時に経済は激しいインフレに見舞われ，政府は対応に苦慮した。 乱発により混乱

問L 下線部Lの結果としておこった現象はどれか。

1. ボトシ銀山の開発
2. 南欧商業資本の没落
3. 大航海時代の到来
4. 東方貿易の衰退
5. インド航路の発見

世界の教育・学問制度

<古代オリエント・ヘレニズムの教育機関>

- アッシュール=パニパルの図書館
{アッシュール・パニパル (前669~626)} ○世界最古の図書館 (首都 [1 **ニネヴェ**])
- ペルガモンの図書館 {小アジア ヘレニズム文化の隆盛 cf. 羊皮紙}

<ヨーロッパ古代の教育機関>

- [2 **アカデメイア**] {プラトン開設 (アテネ郊外、前385ごろ)}
東ローマ皇帝ユスティニアヌス1世閉鎖 (529) cf. オリンピア競技会禁止 (394)
- リュケイオン {アリストテレス創設 (アテネ郊外、前335)・アリストテレス派 (逍遥学派)}
- [3 **ムセイオン**] (ムーサイ学園) {アレクサンドリア (プトレマイオス朝開設の王室付属研究機関)}
[エウクレイデス (前3世紀) =幾何学「原論」 アルキメデス (前3世紀) =てこ及び浮力の原理
エラトステネス (前3世紀) =地球の子午線の測定 アリストタルコス (前2世紀) =地球の公転と自転]

<ヨーロッパ中世の教育機関>

- アーヘンの宮廷学校 {カロリング=ルネサンスの中心・イングランドのアルクイン指導}
※ [4 **カール大帝**] {政治・経済・文化の統合} =西ローマ帝国の復活 (800)
- ②大学 cf. ウニヴェルシタス、自由七科 {文法・修辞・弁証 (論理)・算術・幾何・天文・音楽}
ボローニャ大学 {法学 (ローマ法の継受) cf. 「ローマ法大全」 =学生の同業組合 (ボローニャ型)}
サレルノ大学 {医学 イスラーム世界との接触地点 cf. グレゴリウス7世 (客死)}
[5 **パリ**] 大学 {神学 アペラルの講義は多くの学生を集めた =教師の同業組合 (パリ型)}

オックスフォード大学 {パリ大学に遊学中の学生・教師が帰国して設立}
ロジャー=ベーコン (1214?~94)
ウィリアム=オッカム (1290?~1349) {末期スコラ哲学=唯名論}
神学教授 [6 **ウィクリフ**] (1320ごろ~84) {聖書中心主義=聖書の英訳}
ケンブリッジ大学 {オックスフォード大学より分離 (13世紀初)}
フランシス=ベーコン (1561~1626) {イギリス経験論哲学の祖}

ナポリ大学 {神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世創立 (1229)}
トマス・アキナス (1225ごろ~74) {スコラ哲学の王「[7 **神学大全**]」}

ブラハ大学 {神聖ローマ皇帝 (ボヘミア王カレル1世) 創建 (1348) =ドイツ最古の大学}
フス (1369ごろ、1415) …卒業後、神学教授、のち大学総長となる。
コンスタンツ公会議 (ジギスムント) に召喚、処刑さる

クラクフ大学 {ポーランド国王カジミェシュ3世 (カジミール大王) 創立 (1364)}
※ [8 **コペルニクス**] 出身 (1473~1543)

<ヨーロッパ近代の教育機関>

- プラトン=アカデミア (プラトン学園) {コシモ=デ=メディチ (1389~1464) 創設 (15世紀半ば)}
cf. メディチ家独裁 (1434) {亡命ギリシア人学者を保護}

○アカデミー＝フランセーズ（フランス学士院）{リシュリュー創設（1635）}
{フランス語の純化と国際語化を目的とする。 Cf. フランス古典主義の隆盛}

○ベルリン大学（現フンボルト大学）{文相フンボルト創設（1809） cf. プロイセン改革}
初代総長 [9 **フィヒテ**] cf. 「ドイツ国民に告ぐ」（1807～08）

○イエナ大学 cf. ブルシェンシャフト運動（1817～19）

<国民教育制度の成立（国民教育の必要性の主張と実践）>

○ジャン＝ジャック＝ルソー（1712～78、仏）{「**社会契約論**」（1762）}
{子供の権利を認め、個性の尊重・自発性の重視を主張するなど近代教育の基本原則を提唱した。}

○コンドルセ（1743～94、仏）

{数学者、哲学者、政治家（ジロンド派）・立法議会に国民教育案を提出（1792）}

○ペスタロッチ（1746～1827、スイス）

{孤児院・貧民学校を経営、国民教育普及のために啓蒙活動を行った。}

- [10 **ロバート＝オーウェン**]（1771～1858、英）
{ニューラナークで紡績工場を経営、労働者の生活改善に力を尽くし、世界初の幼稚園をつくった。}
cf. フレーベル {キンダー・ガルテン開設（1840）=初の幼稚園}
※欧米各国における国民教育制度の成立＝19世紀後半に成立。**国民義務教育法**（1870、イギリス）

<イスラーム世界の教育機関>

○バイト＝アル＝ヒクマ（智慧の館）{アッバース朝カリフ、マームーン創設}
{ギリシア語文献を翻訳、イスラーム文化の向上に貢献}

「**固有の学問**」＝（神学・法学・文法学・修辞学・史学など）

「**外来の学問**」＝（哲学・論理学・医学・算術・幾何学など）

○アル＝アズハル大学 {ファーティマ朝時代（909～1171）創設（カイロ）・イスラーム神学研究の中心}

○ [11 **ニザーミア**] 学院 {セルジューク朝宰相、**ニザーム＝アル＝ムルク**創立（1065、バグダードなど）
{神学教授ガザリー cf. **スーフイズム** ウマル＝ハイヤーム「ルバイヤート」}

<インドの教育機関>

○ [12 **ナーランダ**] 学院 {グプタ朝第4代クマールグプタ創建（5世紀）}
{仏教教学の中心として繁栄、12世紀にイスラーム教徒により破壊さる。**玄奘・義浄** cf. 法顕}

<中国の教育機関>

○書院 {宋代以後、各地に設立された公私立の学校・学閥、政派を形成して、しばしば抗争した}
cf. 東林党書院、顧憲成設立 {清末の改革で近代的学校に改変。 科擧の廃止（1905）}

○北京大学 {1912年成立、1917年、**陳独秀・胡適**・李大釗を教授陣に招聘。}

{文学革命、**五・四運動**で中心的役割を果たした cf. 『**新青年**』創刊（1915）**文学革命**開始（1917）}

21 2001年 慶応大 文

次の文章を読んで、(A)～(J)に該当する最も適切なものを、下の〔語群〕から選べ。

現代ヨーロッパの大学制度は、その起源を中世までたどることができる。一般に十二世紀ルネサンスと呼ばれる知的復興運動のなかで、多くの学校が都市に生まれ、そのうちのいくつかがやがて大学として発展していったのであった。中世初期以来、学問・教育は、主として農村に位置した修道院の学校を中心に細々と行われていた。この状態は、11世紀後半になってもあまり変わらず、たとえばスコラ学の基礎を築いたと言われる神学者(A24 **アベラリス**)も、その業績の大半をフランスのバック修道院で成し遂げた。しかし、続く12世紀の間に、ヨーロッパの知的世界は大変革をとげるようになった。ヨーロッパ世界の拡大とともにビザンツ世界・イスラーム世界との接触が活発となり、ヴェネチア、パレルモ、トレドの都市などにおける翻訳作業を通して、アリストテレスなどの古代ギリシャの哲学書や科学書が大量にヨーロッパに流入することになった。この知的刺激に対応して新たな発展を担うことになったのが、経済的にも復興しつつあった都市に生まれた学校であった。

既に11世紀までに(B19 **アレッ**)に著名な医学校が発展し、古代の医学者(C35 **ヒポクラテス**)の著書などが学ばれていた。この医学校はしばしばヨーロッパ最古の大学のひとつとみなされることもあるが、真の意味で中世ヨーロッパNo. 40特有の大学制度が最初に確立されたのは、他の都市においてであった。中世初期以来忘れられていた「ローマ法大全」が11世紀末に復活した後、法学が急速に発展していった。この発展の中心となったのが(D28 **ボローニャ**)の学校であり、やがてその地の学生

組合を中心に大学が発展した。また、12世紀前半には、たとえば唯名論の祖と称される

(E 48 アベラー)などが既に(F 41 パリ)で活躍していたが、この地の学校は12世紀後半から新たに流入したアリストテレスなどの著作の影響を受けて飛躍的に発展した。ここでは(D)とは逆に教師組合を中心に12世紀末までに大学が成立した。また、同じく12世紀後半に、さらに(F)の学校・大学の影響を受けて(G 02 オックスフォード)大学が発展した。

以上の3大学は自然発生的に発展した大学であったが、13世紀には、この他に、(G)大学からの移住によって生まれた(H 09 ケンブリッジ)大学や、神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世によって設立された(I 49 ナポリ)大学、カタリ派対策として教皇庁によって設立されたトゥールーズ大学などがあつた。

制度的に確立された中世の大学は、それまでの学校とは異なり、単なる教育機関としてばかりではなく、学士・修士・博士のような学位の授与機関としても発展した。それは、基本的には学芸・医学・法学・神学の4学部からなっており、学芸学部はその他の学部へ進学するため、とりわけ神学研究のための基礎課程として位置づけられていた。学芸学部で教えられる科目は古くから七自由学芸と総称されていたものを中心としており、四科と呼ばれる4学科の他に、スコラ学の基礎として三学と呼ばれる文法学・修辞学・(J 33 弁証論)の3学科が特に重視された。このような教育制度を基礎に、中世ヨーロッパの学問は、13世紀・14世紀前半に大きく花開くことになった。(F)大学の神学教授もつとめたドミニコ修道会のトマス＝アキナスは、スコラ神学の集大成を成し遂げた。また、(G)大学は、著名なフランシスコ修道会の神学者などとともに経験主義的な科学者などを輩出させた。

〔語群〕

- | | | |
|-----------------|------------------|-------------------|
| (01) アッシジ | (02) オックスフォード | (03) コルドバ |
| (04) 音楽 | (05) イソクラテス | (06) シャルトル |
| (07) ローマ | (08) ロバート＝グロステスト | |
| (09) ケンブリッジ | (10) ガリレオ | (11) ペリクレス |
| (12) アルクイン | (13) ロンドン | (14) 教会法 |
| (15) ミュンヘン | (16) ギリシャ語 | (17) ベルリン |
| (18) 幾何学 | (19) サレルノ | (20) 实在論 |
| (21) ミラノ | (22) カンタベリー | (23) ラテン語 |
| (24) アンセルムス | (25) ボナヴェントゥラ | (26) クレルヴォーのベルナール |
| (27) イブン＝バットゥータ | (28) ボローニャ | (29) ロベール＝ド＝ソルボン |
| (30) ドゥンス＝スコトゥス | (31) アルキメデス | (32) オッカムのウィリアム |
| (33) 弁証論 | (34) オルレアン | (35) ヒポクラテス |
| (36) ハイデルベルク | (37) 数学 | (38) ピサ |
| (39) 錬金術 | (40) ヴィッテンベルク | (41) パリ |
| (42) アウグスティヌス | (43) ルター | (44) パドヴァ |
| (45) フィレンツェ | (46) ダンテ | (47) 天文学 |
| (48) アベラール | (49) ナポリ | (50) プラハ |